①人間の尊厳と人権・福祉理念
②自立の概念

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間の尊厳と自立		介護福祉科／1 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授　業　の　概　要

・福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う
・人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける
・対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援について知識を身につける
・介護実践に必要な知識と支える強要を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

①人間の尊厳と自立では、介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的な理解ができる
②福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を理解できる
③本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解できる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と利用者主体、利用者主体の実現 人権思想の歴史的展開と人権尊重
2	人間の尊厳と人権・福祉理念	福祉理念の変遷 生命倫理
3	人間と人間関係	人間関係の中で自分と他者を理解 人間関係の形成に必要な自己覚知や自己開示について
4	憲法規定	日本国憲法と人権規定
5	救貧と思想	イギリスにおける救貧施策
6	優生思想の歴史	マルサスの人口論と慈善論
7	優生思想の歴史	社会ダーウィニズム
8	友愛訪問	メアリーリッチモンドの取り組み 人権と社会を捉える
9	戦争における人権	戦争や世界情勢における社会と人権
10	権利擁護の視点	アドボカシーの歴史 介護職におけるアドボカシー
11	権利擁護の視点	ノーマライゼーションと社会 日本におけるノーマライゼーション
12	権利侵害	成年後見制度について
13	虐待と人権	虐待の定義 高齢者、障害者虐待防止
14	人権と自立	権利擁護の視点から自立支援を捉える
15	尊厳を守る自立支援	存在価値の尊重

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 1「人間の理解」　中央法規出版	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①人間関係の形成とコミュニケ―ションの基礎
②チームマネジメント

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間関係とコミュニケーション		介護福祉科／2 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授　業　の　概　要

自己覚知することからはじめ、他者理解を通して人間理解を深める。
介護は他職種との協働がなければ成立しない。他職種協働において必要な基礎的なコミュニケーション技術を身につけ、アカウンタビリティを果たすための能力を養う。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

・自己覚知、他者理解ができる。
・対人関係の在り方を考えられる。
・利用者の権利擁護やプライバシ―保護の視点を養う。
・情報伝達に必要なコミュニケーション能力を身につける。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	授業概要・ルール・評価方法等の説明・演習	人間関係を形成するためのコミュニケーションの意義
2	人間の尊厳と人権・福祉理念	人間の尊厳と人権・福祉理念について
3	自立のあり方	自立のあり方・自立と自律
4	心理的理解。頼れる人を探す	コミュニケーションの心理的側面
5	人間と人間関係	人間関係の形成
6	介護者の対応の違い	介護者と利用者の関係性
7	自分と他者の理解	幸福追求と他者理解
8	自分と他者の認識のズレ対人関係における コミュニケーション	対人援助におけるコミュニケーション
9	非言語コミュニケーション	メラビアンの法則
10	対人援助関係とコミュニケーション	アサーショナルコミュニケーション
11	対人援助関係とコミュニケーション	アサーショナルコミュニケーション演習
12	組織におけるコミュニケーション	組織の条件とコミュニケーション
13	介護実践におけるチームマネジメントの意義	マネジメントとチームマネジメント
14	ケアを展開するためのチームマネジメント組織の目標達成のためのチームマネジメント	ケアのマネジメントとチームについて
15	人材育成・自己研鑽	OJT・OFFJT

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 1「人間の理解」　中央法規出版	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①人間関係の形成とコミュニケーション基礎

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コミュニケーション基礎		介護福祉科／1 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授　業　の　概　要

社会におけるコミュニケーションの必要性を学び、コミュニケーションの基礎となる自己表現、他者理解についての学びを深める。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

・社会におけるコミュニケーションの必要性を説明できる。
・コミュニケーション技術を学び自己表現ができる。
・介護におけるコミュニケーションの基本的な理解ができる。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	コミュニケーション基礎	コミュニケーションの目的や意義
2	学校のルールとマナー	学校生活における規律とコミュニケーション手法
3	自己開示	自己理解とコミュニケーション
4	傾聴	「聞く」と「聴く」
5	介護におけるコミュニケーションとは	対人援助におけるプロセミックス
6	介護におけるコミュニケーションの対象	介護対象者とのコミュニケーションの留意点
7	援助関係とコミュニケーション	コミュニケーション技法 直角法・対面法・平行法
8	報連相・・・報告	報告の目的・活用
9	報連相・・・連絡	連絡の目的・活用
10	報連相・・・相談	相談の目的・活用
11	言語、非言語、準言語コミュニケーション	コミュニケーション技法非言語的コミュニケーションの役割
12	目的別のコミュニケーション技術	コミュニケーションの使い分け
13	集団におけるコミュニケーション技術	コミュニケーションと集団マネジメント
14	働くこと	就労におけるコミュニケーションの必要性
15	コミュニケーションの捉え方	権利擁護とコミュニケーション

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
参考文献 川村匡由著 「改訂版福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方」	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①社会と生活のしくみ
②地域社会の実現に向けた制度や施策

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会の理解Ⅰ		介護福祉科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授業の概要

介護実践に必要な知識という観点から、社会福祉の歴史や思想を理解し、社会保障制度・介護保険制度・障害者総合支援制度等の法と制度について学ぶ。変動する地域生活の課題に関する専門的な知識を習得し、介護実践に必要な教養と総合的な判断力・豊かな人間性を養う。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

1.福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点・専門職としての基盤となる倫理観を養う
2.地域社会における生活（施設・在宅）とその支援について地域包括ケアの基礎的な知識を習得することができる
3.社会保障の制度・施策の基本的な考え方やしくみについて基礎的な知識を習得することができる
4.高齢者福祉・障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、基礎的な知識を習得することができる

回	テーマ	内容
1	社会と生活のしくみ①	生活とは：生活を幅広くとらえる ライフステージ・家庭生活の機能
2	社会と生活のしくみ②	生活とはたらき方： ライフスタイルの変化・少子高齢化・働き方改革 家族機能と役割：家族の定義・家族観・家族の変容
3	社会と生活のしくみ③	社会・組織の機能と役割： 概念・ソーシャルネットワーク グループ支援・エンパワメント
4	社会と生活のしくみ④	地域・地域社会と地域社会における生活支援 概念と変化 都市化・過疎化、自助・互助・共助・公助 ソーシャルサポート・福祉の考え方 フォーマルサービス・インフォーマルサポート
5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	地域社会における生活支援：地域福祉の発展 理念と推進、地域組織化活動
6	地域共生社会の実現に向けた制度や施策②	地域共生社会：社会的背景と理念 ソーシャルインクルージョン 地域共生社会の実現に向けた取り組み
7	地域共生社会の実現に向けた制度や施策③	地域包括ケア：理念とケアシステム
8	社会における介護福祉士の役割	介護福祉士としての社会の捉え方

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 2「社会の理解」 中央法規出版	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

③社会保障制度

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会の理解Ⅱ		介護福祉科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授業の概要

介護実践に必要な知識という観点から、社会福祉の歴史や思想を理解し、社会保障制度・介護保険制度・障害者総合支援制度等の法と制度について学ぶ。変動する地域生活の課題に関する専門的な知識を習得し、介護実践に必要な教養と総合的な判断力・豊かな人間性を養う。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

1.社会保障の理念・対象・しくみについて基礎的な知識を習得することができる
2.社会保障の法的根拠・法体系（施策）について基礎的な知識を習得することができる
3.社会保障の現状と課題について理解することができる

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 社会保障の基本的な考え方	社会保障制度の概要：基本的な考え方 社会保障の理念・役割と機能 セーフティネット（リスク分配） ナショナルミニマム/所得再分配
2	日本の社会保障制度の発達①	日本の社会保障の歴史と考え方 憲法第25条（生存権） 憲法第13条（幸福追求権）との関係 国民皆保険と国民皆年金
3	日本の社会保障制度の発達②	社会福祉の法体系：福祉六法 社会保障の見直しと変化 社会保険と社会扶助（防貧と救貧）
4	日本の社会保障制度のしくみ①	社会保障のしくみ：サービス利用方式 給付費・財源 応益負担と応能負担・サービス給付と現金給付 保険者と被保険者
5	日本の社会保障制度のしくみ②	年金保険：種類と給付条件 国民年金と厚生年金（老齢・障害・遺族）
6	日本の社会保障制度のしくみ③	医療保険制度　種類と給付方式 被用者保険・国民健康保険 後期高齢者医療制度 現金給付と医療給付高額（医療費・傷病手当金など）
7	日本の社会保障制度のしくみ④ 現代社会と社会保障制度	雇用保険と労働者災害補償保険 各種社会扶助：生活保護制度 人口動態の変化・少子高齢社会（高齢化率） 持続可能な社会保障のために
8	社会保障制度の課題	日本の社会保障制度における動向と課題

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 2「社会の理解」 中央法規出版	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

④高齢者福祉と介護保険制度　⑤障害福祉と障害者保健福祉制度　⑥介護実践に関連する諸制度

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会の理解Ⅲ		介護福祉科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授業の概要

介護実践に必要な知識という観点から、社会福祉の歴史や思想を理解し、社会保障制度・介護保険制度・障害者総合支援制度等の法と制度について学ぶ。変動する地域生活の課題に関する専門的な知識を習得し、介護実践に必要な教養と総合的な判断力・豊かな人間性を養う。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

1.高齢者福祉制度・介護保険制度の内容としくみについて基礎的な知識を習得することができる
2.高齢者福祉の現状と課題について理解することができる
3.障害者福祉制度の内容としくみについて基礎的な知識を習得することができる
4.障害者福祉制度の現状と課題について理解することができる
5.人間の尊厳と自立・権利擁護や個人情報などの基本的な考え方やしくみについて知識を習得することができる

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション高齢者保健福祉と介護保険制度①	高齢者保健福祉の動向：歴史と課題 高齢者の現状と介護者の状況
2	高齢者保健福祉と介護保険制度②	高齢者保健福祉に関連する法体系と変遷 高齢社会対策基本法・老人福祉法・介護保険法 高齢者の医療の確保に関する法律
3	高齢者保健福祉と介護保険制度③	介護保険制度① 介護保険法の目的・保険者と被保険者 財源と利用者負担
4	高齢者保健福祉と介護保険制度④	介護保険制度② 要介護認定と要支援認定 保険給付サービス（介護給付と予防給付）の種類・内容・利用手続き
5	高齢者保健福祉と介護保険制度⑤	介護保険制度③：組織団体の役割 サービス事業者と施設 地域包括支援センター 居宅サービス・地域密着型サービス・施設サービス
6	高齢者保健福祉と介護保険制度⑥	介護保険制度④：利用可能なサービスの種類 居宅サービス・地域密着型サービス・施設サービス
7	高齢者保健福祉と介護保険制度⑦	介護保険制度③：介護支援専門員の役割（ケアマネジメント） 居宅介護支援・介護予防支援・施設介護支援
8	障害者保健福祉と障害者総合支援制度①	障害者福祉の歴史・動向：障害者の現状・支援者の状況 障害者の法的定義
9	障害者保健福祉と障害者総合支援制度②	障害者保健福祉に関連する法体系 障害者権利条約・障害者基本法・障害者差別解消法
10	障害者保健福祉と障害者総合支援制度③	障害者支援制度：障害者総合支援法 目的と役割・財源と利用者負担 自立支援給付と地域生活支援事業（介護給付・訓練等給付など） 障害者支援区分認定
11	障害者保健福祉と障害者総合支援制度④	障害者福祉サービスの種類・内容・利用手続き 地域ネットワーク 相談支援専門員とケアマネジメント
12	介護実践に関連する諸制度①	個人の権利を守る制度 権利擁護・成年後見制度・高齢者虐待防止法など

回	テーマ	内　容
13	介護実践に関する諸制度②	地域生活を支援する制度度や施策の概要 バリアフリー新法・雇用促進法 高齢者保健医療制度・特定健康診査・生活習慣病予防
14	介護実践に関連する諸制度③	生活保護制度の概要 生活保護の目的・種類・内容
15	各種法律における介護福祉士の役割	法律の捉え方・介護福祉士としての視点

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 2「社会の理解」 中央法規出版	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

選択③家族・福祉、衣食住、消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
在宅介護		介護福祉科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授業の概要

在宅介護の目的や役割、対象や介護の特徴、在宅介護に関連する制度やケアシステムなどを体系的に理解する
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

これから在宅介護が目指すべきその人の生活を支える「在宅におけるケア」、具体的なイメージを持って実感し在宅介護の基本的な知識が習得できる

回	テーマ	内容
1	在宅介護の目的と変遷	オリエンテーション 在宅介護の基本的理解
2	在宅介護の生活環境	在宅で暮らす高齢者の住環境の留意点
3	超高齢社会における地域包括ケア	地域包括ケアの仕組みについて
4	訪問介護の役割と機能	訪問介護について学ぶ 身体介護や生活援助
5	生活援助の基本的理解	掃除の基本 汚れを落とすメカニズム
6	生活援助の基本的理解	洗濯表示について 裁縫の実践
7	障害者マーク	障害者マークや消費者マークの基本的理解
8	在宅介護と生活文化	生活文化の変遷と在宅介護

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

選択④現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域フィールドワークⅠ		介護福祉科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授業の概要

他者に伝える技術を、自らが選んだ課題において学び、調べ、まとめる中で身につけていく。その際、地域社会にそのフィールドにおき、地域と個人、地域と福祉の関係性を体系的に学んでいく。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

・調査に基づいて地域における福祉に関しての課題に気づき、解決策を考察することができる
・研究した調査資料をまとめ、他者に伝えることができる

回	テーマ	内容
1	地域フィールドワークとは	地域とは何か、地域の役割を知る
2	ボランティアとは何か ボランティアで学ぶこと	ボランティアの種類、ボランティアで学べること
3	施設ボランティアの説明 グループ毎の目標設定	ボランティア実施の内容、グループでの目標を決める
4	ボランティアでの注意	ボランティアする上での注意すべきこと
5	ボランティア実施	【演習】
6	ボランティア実施	【演習】
7	ボランティア実施	【演習】
8	まとめ	グループでの感想や反省のまとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
参考文献 藤田久美編著 「大学生のためのボランティア活動ハンドブック」 ふくろう出版	演習評価 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度の評価に含める。

選択④現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域フィールドワークⅡ		介護福祉科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	23回	45時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授業の概要

他者に伝える技術を、自らが選んだ課題において学び、調べ、まとめる中で身につけていく。その際、地域社会にそのフィールドにおき、地域と個人、地域と福祉の関係性を体系的に学んでいく。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

・調査に基づいて地域における福祉に関しての課題に気づき、解決策を考察することができる
・研究した調査資料をまとめ、他者に伝えることができる

回	テーマ	内容
1	地域福祉の現状と課題	地域社会における福祉の現状と課題について知る
2	児童・障害者（児）の現状	障害を持つ子供や障害者の現状と課題について知る
3	グループ別に役割、研究課題の明確化	研究テーマを決める
4	各グループで研究内容の検討、および発表	【グループワーク】
5	各グループで調査内容の検討および調査	【グループワーク】
6	調査内容、インタビュー内容検討	【グループワーク】
7	調査内容、依頼先検討	【グループワーク】
8	調査内容、細かいインタビュー内容検討	【グループワーク】
9	調査①	【演習】
10	調査②	【演習】
11	調査③	【演習】
12	調査④	【演習】
13	まとめ、レポート、配布資料作成	【グループワーク】
14	レポート、配布資料作成	【グループワーク】
15	調査発表	【演習・発表】
16	調査発表	【演習・発表】
17	調査発表	【演習・発表】

回	テ ー マ	内　　容
18	調査発表	【演習・発表】
19	提案内容のまとめ（調べなおしなど）	【グループワーク】
20	パソコン基礎	【講義・演習】
21	パソコン基礎	【講義・演習】
22	全体発表	発表
23	総まとめ	【講義・グループワーク】

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
参考文献 ＊参考文献については、その都度提示	演習評価 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

選択⑤様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重しあいながら共生する社会への理解

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
キャリア形成		介護福祉科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	佐野　貴憲(実務経験有)

授業の概要

介護福祉士としての社会常識・身だしなみ・接遇について学び、考え方・行動・話し方などを身につける日本の歴史について学び、介護福祉士として高齢者の生活史・思考・行動などを理解する
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

1.介護福祉士としての資質、身だしなみ・言葉遣い・あいさつの仕方など対人技能について理解し行動できる
2.社会人としての一般社会常識(マナー)・清潔観念・提出物の締め切りなど実務技能について理解し行動できる
3.介護福祉士として介護現場で使用する実務上の言葉について理解し行動できる
4.日本の歴史を学び、高齢者の生活してきた時代背景を理解し相手の思い・行動をくみ取ることができる知識を習得する

回	テーマ	内容
1	社会人としての一般常識①	社会人とは マナー・あいさつ・期限を守るということなど演習
2	社会人としての一般常識②	社会人とは マナー・あいさつ・期限を守るということなど演習
3	介護福祉士の資質①	介護福祉士に求められる資質とは 利用者・家族が求める介護福祉士像 施設が求める介護福祉士像 身だしなみ・言葉遣い
4	介護福祉士の資質②	介護福祉士に求められる資質とは 利用者・家族が求める介護福祉士像 身だしなみ・言葉遣い
5	介護の現場で使用する言葉①	介護の現場で使用する実務上の言葉とは なぜ専門用語が必要なのか 申し送りや職員間でよく使われる言葉
6	介護の現場で使用する言葉②	介護の現場で使用する実務上の言葉とは なぜ専門用語が必要なのか 申し送りや職員間でよく使われる言葉
7	日本の歴史	高齢者が歩んできた時代とは 歴史的背景など演習
8	現代社会における介護福祉士	多文化社会における世界基準の考え方

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度 生活態度	20.0% 40.0% 40.0%	提出物は授業態度に含める

①介護福祉の基本となる理念　②介護福祉士の役割と機能

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護の基本A		介護福祉科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	必須	市井　和美(実務経験有)

授業の概要

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

①介護の概念や定義、時代背景から考える介護問題を理解することができる
②介護を必要とする人の生活や生活歴、時代背景をイメージし、その人らしい暮らしや生活の背景を考えることができる
③尊厳を支える介護福祉の観点を理解できる

回	テーマ	内容
1	介護の成り立ち	・社会の変化と介護福祉の歴史 ・制度化以前の介護
2	介護の概念の変遷	1970年代 介護サービスの量的拡充が図られる
3	介護の概念の変遷	1980年 介護サービスの量的向上が図られる
4	介護の概念の変遷	1990年代 介護実践における基本的な概念が整理される
5	介護の概念の変遷	2000年以降 今日の介護サービスの基本的枠組みが整備され介護概念が拡充する
6	介護の概念の変遷	・今後、対応が必要な介護問題を考えてみる (グループワーク)
7	介護福祉の基本理念	介護福祉士の理念とは
8	介護福祉の基本理念	尊厳を支える介護(ノーマライゼーション、QOL)
9	介護福祉の基本理念	自立を支える介護(自立支援、利用者主体)
10	介護福祉の基本理念	尊厳を支える介護(グループワーク)
11	介護福祉の基本理念	利用者主体の自立を支えるために必要な自己決定 (グループワーク)
12	介護福祉士の活動の場と役割	地域包括ケアシステム
13	介護福祉士の活動の場と役割	医療的ケア・人生最終段階の支援・災害時におけるケア
14	介護福祉士の活動の場と役割	介護福祉士の活動する場と役割(グループワーク)
15	社会福祉士及び介護福祉士法	「社会福祉士及び介護福祉士法」 (定義、義務、名称独占、登録のしくみ) 介護福祉士資格取得者の状況

回	テーマ	内容
16	社会福祉士及び介護福祉士法	「社会福祉士及び介護福祉士法」 (定義、義務、名称独占、登録のしくみ)
17	社会福祉士及び介護福祉士法	・心身の状況に応じた介護を考える(グループワーク)
18	社会福祉士及び介護福祉士法	・介護福祉士の義務規定(グループワーク)
19	社会福祉士及び介護福祉士法	・介護福祉士の義務規定(グループワーク)
20	社会福祉士及び介護福祉士法	・介護福祉士の義務規定(グループワーク)
21	自立に向けた介護	・介護福祉における自立支援の意義
22	自立に向けた介護	・生活意欲と活動と介護予防
23	自立に向けた介護	・リハビリテーションと介護福祉
24	自立に向けた介護	・就労支援と介護福祉
25	自立に向けた介護	・家族、地域との関わりと福祉のまちづくり
26	介護福祉士養成カリキュラムの変遷	・介護ニーズの変化と、介護福祉士に求められる役割を理解する
27	介護福祉士養成カリキュラムの変遷	・求められる介護福祉士像を理解する
28	介護福祉士を支える団体	・専門的な技術・知識を高める障害研修 ・各学会の活動について理解する
29	介護福祉の本質	・人生設計から生ききることを捉える(グループワーク)
30	介護福祉の本質	・社会を創造する力(グループワーク)

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

③介護福祉士の倫理　④自立に向けた介護

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護の基本B		介護福祉科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授業の概要

介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、介護を必要とする人の理解と生活を支えるしくみ、自立支援、介護実践における安全とリスクマネジメントの理解を学ぶ.
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

①ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーションなどの意義や方法を理解できる
②介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を養うことができる

回	テーマ	内容
1	介護福祉士の倫理	介護に携わる人がもつべき職業倫理
2	介護福祉士の倫理	「介護の倫理」の実践と「尊厳ある介護実践」
3	介護福祉士の倫理	プライバシーの保護と介護の倫理
4	介護福祉士の倫理	高齢者虐待と生命倫理（介護倫理）
5	介護福祉士の倫理	人生の最終段階の場面（グループワーク）
6	介護福祉士の倫理	人生の最終段階の場面（グループワーク）
7	日本介護福祉士会の倫理綱領	倫理基準（行動規範）
8	日本介護福祉士会の倫理綱領	倫理基準（行動規範）
9	日本介護福祉士会の倫理綱領	利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践 （グループワーク）
10	自立支援の考え方	利用者の意思決定を支援する
11	自立支援の考え方	利用者の生活の事柄に対する自己決定を支援
12	自立支援の考え方	利用者の生命・身体に関する自己決定を支援
13	自立支援の考え方	自立支援とエンパワメントの考え方
14	自立支援の考え方	自立支援とICF（国際生活機能分類）の考え方
15	自立支援の考え方	利用者の意思決定を支援 （グループワーク）

回	テ ー マ	内　　容
16	ICF の考え方	グループワーク
17	ICF の考え方	グループワーク
18	自立支援とリハビリテーション	自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方の理解
19	自立支援とリハビリテーション	リハビリテーションの中での介護福祉士の役割について理解
20	自立支援と介護予防	介護予防事業
21	自立支援と介護予防	介護予防の種類と特徴
22	自立支援と介護予防	介護予防の種類と特徴
23	自立支援と介護予防	介護予防の実際
24	自立支援と介護予防	介護予防の実際
25	介護福祉の基本理念	・尊厳を支える介護復習
26	社会福祉士及び介護福祉士法	「社会福祉士及び介護福祉士法」 （定義、義務、名称独占、登録のしくみ）
27	介護福祉士の倫理	倫理基準（行動規範）復習
28	介護福祉士の倫理	倫理基準（行動規範）復習
29	倫理に基づいたケアの展開	倫理基準に基づいたケアをするために（グループワーク）
30	介護観の考え方	専門職としての価値観

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

⑤介護を必要とする人の理解
⑥介護を必要とする人の生活を支えるしくみ

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護の基本C		介護福祉科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	市井　和美(実務経験有)

授業の概要

介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う.

【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

①介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解できる
②介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解できる

回	テーマ	内容
1	介護を必要とする人の理解	生活の個別性と多様性の理解
2	介護を必要とする人の理解	事例に基づいてグループワーク
3	介護を必要とする人の理解	個別性と多様性について発表
4	高齢者の生活(個別性)	生活のニーズや家族・地域との関わりフォーマルサービスとインフォーマルサービスとは
5	高齢者の生活(社会ニーズ)	社会における個別ニーズの課題(グループワーク)
6	高齢者の生活(関係要因の明確化)	個別ニーズの課題関係要因を明らかにする
7	高齢者の生活(社会資源)	社会資源の活用 地域連携
8	高齢者の生活(社会資源開発)	社会資源の創造(グループワーク)
9	高齢者の生活(制度の活用)	介護保険制度におけるサービス等の種類
10	障害者の生活(個別性)	生活のニーズや家族・地域との関わりフォーマルサービスとインフォーマルサービスとは
11	障害者の生活(社会ニーズ)	社会における個別ニーズの課題(グループワーク)
12	障害者の生活(関係要因の明確化)	個別ニーズの課題関係要因を明らかにする
13	障害者の生活(社会資源)	社会資源の活用地域連携
14	障害者の生活(社会資源開発)	社会資源の創造(グループワーク)
15	障害者の生活(制度の活用)	障害者総合支援法の理解

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

⑦協働する多職種の役割と機能 ⑧介護における安全の確保とリスクマネジメント ⑨介護従事者の安全

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護の基本D		介護福祉科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	市井 和美(実務経験有)

授業の概要

介護におけるリスクマネジメントや介護従事者の介護における安全の確保などについて学習を深める
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

①他職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できる
②介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や自己への対応が理解できる
③介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できる

回	テーマ	内容
1	保健福祉に関わる多職種理解	保健福祉に関わる職種の理解
2	多職種連携	多職種の役割と連携
3	介護における安全の確保	リスクマネジメントの意義・目的
4	介護における安全の確保	危険予知と危険回避 (観察、正確な技術、予測、分析、対策)
5	介護における安全の確保	介護現場でおきる介護事故
6	介護における安全の確保	ヒヤリハット・事故報告書
7	介護における安全の確保	利用者の生活の安全(セーフティマネジメント)
8	介護における安全の確保	身体拘束について(グループワーク)
9	感染症対策	感染予防の意義と目的
10	感染症対策	感染予防の基礎知識と技術
11	感染症対策	感染症対策
12	感染症対策	薬剤の取扱いに関する基礎知識
13	介護従事者の安全	介護従事者を守る団体と法制度
14	介護従事者の安全	介護従事者を守る環境整備
15	介護従事者の安全	介護従事者の心身の健康管理

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①介護を必要とする人とのコミュニケーション
③障害の特性に応じたコミュニケーション

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コミュニケーション技術 A		介護福祉科／1 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	市井　和美(実務経験有)

授業の概要

介護福祉士として対象者に合わせたコミュニケーションの知識と技術を学ぶ。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

障害のある利用者に対しての理解を深める。
介護実践にて必要とされるコミュニケーション技術の習得を目指す。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション さまざまなコミュニケーションを知る
2	人間がもつ五感	人間が持つ五感とコミュニケーション 味覚・聴覚・嗅覚・視覚・触覚
3	コミュニケーション障害① 視覚障害	マズローの基本的欲求階層説 視覚障害をもつ人とのコミュニケーション
4	コミュニケーション障害② 視覚障害	コミュニケーションの展開過程 視覚障害をもつ人とのコミュニケーション
5	コミュニケーション障害③ 聴覚障害	バイスティックの 7 原則 聴覚障害をもつ人とのコミュニケーション
6	コミュニケーション障害④ 構音障害・失語症	閉じられた質問と開かれた質問 構音障害と失語症をもつ人とのコミュニケーション
7	コミュニケーション障害⑤ 認知症	聞くと聴く 認知症を持つ人とのコミュニケーション
8	コミュニケーション障害⑥ うつ病・抑うつ状態・統合失調症	受容と共感 うつ病・抑うつ状態・統合失調症をもつ人とのコミュニケーション
9	コミュニケーション障害⑦ 知的障害・発達障害	言語・非言語・準言語コミュニケーション 知的障害・発達障害をもつ人とのコミュニケーション
10	コミュニケーション障害⑧ 高次脳機能障害・重症心身障害・神経難病	動機づけ 高次脳機能障害・重症心身障害・神経難病を持つ人とのコミュニケーション
11	コミュニケーション障害⑨	ものの見方 意思決定支援
12	コミュニケーション障害⑩総論	さまざまな人とのコミュニケーション　総論
13	手話の体験①	演習 手話を体験
14	点字の体験①	演習 点字を体験

回	テ ー マ	内　　容
15	点字の体験②	演習 点字を体験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術」中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 出席率	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

②介護における家族とのコミュニケーション
④介護におけるチームコミュニケーション

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コミュニケーション技術B		介護福祉科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

コミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、介護におけるチームのコミュニケーションについて情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

・利用者の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するための基本的な技術が身につく
・介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や、情報の管理について理解できる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	オリエンテーション コミュニケーションAの振り返り	オリエンテーション コミュニケーションAの振り返り
2	家族とのコミュニケーション	家族との関係づくり
2	家族とのコミュニケーション	家族との関係づくり 家族の想いを知る手立て
3	家族とのコミュニケーション	家族への助言・指導・調整
4	家族とのコミュニケーション	家族への助言・指導・調整
5	家族とのコミュニケーション	家族関係と介護ストレスへの対応
6	介護におけるチームのコミュニケーション	多職種連携とコミュニケーション
7	介護におけるチームのコミュニケーション 報告・連絡・相談	相手に合わせた報告・連絡・相談の方法
8	介護におけるチームのコミュニケーション 報告・連絡・相談	相手に合わせた報告・連絡・相談の技術
9	介護におけるチームのコミュニケーション 報告・連絡・相談	相手に合わせた報告・連絡・相談の技術
10	介護におけるチームのコミュニケーション 記録	記録をすることの意義・目的
11	介護におけるチームのコミュニケーション 記録	記録の種類
12	介護におけるチームのコミュニケーション 記録	記録の方法と記入方法

回	テ　ー　マ	内　　容
13	介護におけるコミュニケーション 記録	記録の方法と記入方法
14	会議進行・議事進行・説明の技術	会議とは 会議の議事進行
15	会議進行・議事進行・説明の技術	チームにおける説明の技術

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術」中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含む

③自立にむけた移動の介護

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅰ-1		介護福祉科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授業の概要

基本動作のポイントを学習し、自立に向けた介護支援の方法を演習・実技を交えて学習する。
また、リハビリテーションからみた介護技術について学習を深める。
【実務経験】 福祉施設

授業終了時の到達目標

①リハビリテーションとは何かを知り、介護福祉士はリハビリテーションに係る職種であることを知る
②ポジショニングの重要性を知り、安楽・安全な肢位について理解する
③基本動作のポイントを学習し、介護支援の方法を学ぶ

回	テーマ	内容
1	リハビリテーションとは	講義 リハビリテーションの目的
2	リハビリテーションの領域	講義 リハビリテーションの領域について
3	リハビリテーションにかかわる職種	講義 リハビリテーションにかかわる職種（PT/OT/ST）
4	リハビリテーションにかかわる機器	講義・実技 リハビリテーションに使用する機器
5	利用者様の大変さを考える①	演習 移動介助における利用者の負担（身体的）
6	利用者様の大変さを考える②	演習 移動介助における利用者の負担（精神的）
7	ポジショニングについて	講義・実技 ポジショニングの効果
8	ポジショニングの実際①背臥位	講義・演習 背臥位の方法
9	ポジショニングの実際②側臥位	講義・演習 側臥位の方法
10	ポジショニングの実際③車椅子座位	講義・演習 車いすでの座位保持
11	寝返り動作のポイントと支援方法	講義・実技 寝返りについて
12	起き上がる動作のポイントと支援方法	講義・実技 起居動作
13	立ち上がり動作のポイントと支援方法	講義・実技 立ち上がり時の支援
14	移乗動作のポイントと支援方法	講義・実技 自立支援における移乗動作
15	移乗動作のポイントと支援方法	講義・実技 移乗動作（一部介助～全介助）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度含める

⑤自立に向けた食事の介護　⑧自立に向けた家事の介護

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅰ-2		介護福祉科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	市井　和美(実務経験有)

授業の概要

食事の意義・目的を知り、栄養の基礎的知識を習得する。
介護食の実際を学習し、食事の形状や食感を体験、食事形態の意義・目的を学習する。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

①食事の意義・目的を理解する
②栄養の基礎的知識が分かる
③身体状況に応じた食事形態の意義・目的を理解する

回	テーマ	内容
1	自立に向けた家事の介護	講義 生活するとは何かを考える
2	食事の意義と目的	講義 食事の意義や目的
3	栄養に関する基礎知識	講義 栄養素について各種栄養素を取り入れた食事のあり方
4	栄養に関する基礎知識(演習)	講義 演習食事のバランス
5	おいしく楽しい食事にするための留意点	講義 食事と健康について
6	おいしく楽しい食事にするための留意点 (演習)	講義・演習 バランスの取れた食事
7	おいしく楽しい食事にするための留意点 (演習)	講義・演習 バランスの取れた食事
8	介護食の基礎知識 自立に向けた食事介助	講義 介護の対象者と食事・自立支援
9	介護食の基礎知識 (演習)	講義・演習 介護食について
10	介護食の基礎知識 (演習)	講義・演習 介護食について
11	自立に向けた家事の介護	講義 家事援助について
12	自立に向けた家事の介護	講義 家事援助について
13	自立に向けた家事の介護 (演習)	講義・演習 援助方法
14	安全で的確な食事介助の方法	演習 安全な食事介助
15	安全で的確な食事介助の方法 (演習)	演習 食事介助演習

⑤自立に向けた食事の介護　⑧自立に向けた家事の介護

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①生活支援の理解

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅰ-3		介護福祉科／1 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	市井　和美(実務経験有)

授　業　の　概　要

利用者のより豊かな生活を実現する方法の一つとして、レクリエーションを学習しその基礎知識を習得する。
学習したことに基づき、介護実習Ⅰ-2 においてレクリエーションプログラムを立案し実施する。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

①レクリエーションの基本を理解する
②レクリエーションの実際を知る
③レクリエーションの立案・実施ができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	オリエンテーション レクリエーションとは	レクリエーションの意義と目的
2	生活の豊かさ	生活の豊かさを考える
3	介護実習Ⅰ-2 レクリエーションプログラムの実施	介護実習Ⅰ-2 レクリエーションプログラムの立案・実施・評価
4	レクリエーションの実際	レクリエーションの実際　在宅・施設編
5	レクリエーションプログラム立案	レクリエーションプログラムの立案①
6	レクリエーションプログラム立案	レクリエーションプログラムの立案② 介護実習Ⅰ-2　専用用紙に記入
7	レクリエーションプログラム立案	レクリエーションプログラムの立案③ 教員による個別ふりかえりの実施
8	レクリエーションプログラムの実施	レクリエーションプログラムの実施①
9	レクリエーションプログラムの実施	レクリエーションプログラムの実施②
10	レクリエーションプログラムの評価	レクリエーションプログラムの評価①
11	レクリエーションプログラムの評価	レクリエーションプログラムの評価② 介護実習Ⅰ-2　専用用紙に記入
12	【介護実習Ⅰ-2 終了後】 介護実習Ⅰ-2　ふりかえり	介護実習Ⅰ-2　ふりかえり①
13	介護実習Ⅰ-2　ふりかえり	介護実習Ⅰ-2　ふりかえり②
14	介護実習Ⅰ-2　まとめ・発表	介護実習Ⅰ-2　まとめ・発表①
15	介護実習Ⅰ-2　まとめ・発表	介護実習Ⅰ-2　まとめ・発表②

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
＊参考文献については、その都度提示	発表試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

②自立に向けた居住環境の整備

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅰ-4		介護福祉科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	市井　和美(実務経験有)

授　業　の　概　要

住まいの役割、家族・人と生活空間のかかわりを学習する。また、安全で快適に暮らすための生活環境について学習し、高齢者・障害者の生活環境の現状とその対策について考える。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

①住まいの役割、家族・人と生活空間のかかわりを知る
②安全で快適な室内環境を整備するための基本事項を理解する
③高齢者・障害者の生活環境の現状を知り、その対策について学習する
④居住環境の整備における多職種との連携について知る

回	テ　ー　マ	内　　容
1	居住環境の意義住まいの役割	講義 住まいの役割について
2	高齢者の住まいの変遷	講義 高齢者の住まいの変遷 自立に向けた居住環境の整備
3	障害のある人の住まいの変遷	講義 障害のある人の住まいの変遷 自立に向けた居住環境の整備
4	居場所とパーソナリティーの関係	講義 居場所とパーソナリティー
5	生活空間と介護	講義 生活空間と介護について
6	暮らしと環境問題	講義 暮らしと環境問題
7	安心で快適な生活の場づくり	講義 安心で快適な生活の場づくり
8	住まいの場における工夫・留意点	講義 住まいの場における工夫や留意点
9	快適な室内環境	講義 快適な室内空間をつくる
10	高齢者・障害者の住まい	講義 高齢者・障害者の住まい
11	室内気候の調整	講義 室内気候の調整方法
12	住まいの維持・管理	講義 住まいの維持・管理
13	居住環境の整備における多職種連携の必要性	講義 居住環境整備における多職種連携
14	バリアフリーの実例	講義 バリアフリーについて
15	ユニバーサルデザイン	講義 ユニバーサルデザインについて

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」　中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①生活支援の理解

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅰ-5 （回想法・音楽療法）		介護福祉科／1 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	8 回	15 時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

尊厳・自立・生活の豊かさを維持していくために本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践ができるよう知識・技術を学習する
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 回想法・音楽療法の意義について理解し、介護福祉士としての役割を理解することができる
2. 回想法・音楽療法に効果的な音楽ついて時代背景から知ることができる
3. 高齢者が好む音楽を知り口ずさめるよう体験し、楽しむことができる
4. 高齢者に負担のかからない動きを取り入れた音楽療法を体験し、楽しむことができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	オリエンテーション 音楽のチカラ	オリエンテーション 音楽がもたらす効果
2	音楽療法とは	音楽療法とは 自分の好きな歌を紹介しよう
3	回想法とは	回想法とは 自分が懐かしく感じる音楽を紹介しよう
4	富山の地域に伝わる音楽	富山の地域に伝わる音楽　郷土芸能 富山の方言に触れよう
5	日本に伝わる音楽 童謡と昔話	日本に伝わる音楽　童謡と昔話 四季の折り紙をつくろう
6	日本に伝わる音楽 昭和歌謡	日本に伝わる音楽　昭和歌謡 昭和のカルタに挑戦
7	好きな音楽さがし	好きな音楽さがし レクリエーション計画を立てる
8	音楽を使ったレクリエーション	音楽を使ったレクリエーションをしよう

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
＊参考文献については、その都度提示	演習発表 授業態度	50.0% 50.0%	提出物は授業態度に含める

⑥自立に向けた清潔保持の介護

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅰ-6 （スキンケア）		介護福祉科／1 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	8 回	15 時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

皮膚の構造・機能を学習し、高齢者の特徴を学習する。
清潔を保持するためにどのような注意や対策が必要なのかを理解する。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 高齢者の皮膚について理解し、介護福祉士としての役割を理解することができる
2. スキンケアの身体的効果・心理的効果について理解することができる
3. 高齢者に負担のかからないスキンケアの方法について理解し、実践することができる
4. 高齢者対するスキンケアを（状況設定）利用者と一緒に楽しむことができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	高齢者の皮膚とは	オリエンテーション 成人と高齢者の皮膚の違い スキンケア（触れること）の効果とは
2	高齢者に対するスキンケアの方法①	高齢者に対するスキンケアの方法 保湿の効果・洗浄の方法
3	高齢者に対するスキンケアの方法②	高齢者に対するスキンケアの方法 褥瘡とは・ポジショニング演習
4	高齢者に対するスキンケアの方法③	高齢者に対するスキンケアの方法 爪切り・マニュキュアによるおしゃれ
5	高齢者に対するスキンケアの方法④	高齢者に対するスキンケアの方法 マッサージ・アロマ等においの効果
6	高齢者に対するスキンケアの方法⑤	高齢者に対するスキンケアの方法 手浴・ホットタオル
7	高齢者に対するスキンケアの方法⑥	高齢者に対するスキンケアの方法⑥ 爪切り・マッサージ・手浴のまとめ
8	演習発表	グループごとに演習発表

教科書・教材	評価基準	評価	その他
＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	50.0% 50.0%	提出物は授業態度に含める

⑩人生の最終段階における介護

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅰ-7 （応急手当・終末期ケア）		介護福祉科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授業の概要

尊厳・自立・生活の豊かさを維持していくために本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践ができるよう知識・技術を学習する
【実務経験】 病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1.応急手当の視点と方法ついて理解し、介護福祉士としての役割を理解することができる
2.応急手当のポイントを理解し、安全に実施することができる
3.医療職との連携ついて理解し、介護職としての役割を実施することができる
4.終末期の心身の変化について学び、介護福祉士としての役割を理解することができる
5.本人・家族の終末期の変化に対応した配慮あるケア（声掛け含む）の実施をすることができる
6.個別性を踏まえた終末期のケアを考え、実施することができる

回	テーマ	内容
1	応急手当の知識と技術	講義 オリエンテーション 応急手当について
2	応急手当の知識と技術	講義 応急手当の実施 外傷・骨折
3	応急手当の知識と技術	講義 応急手当の実施 窒息・熱傷・救急車の手配
4	応急手当の知識と技術	講義 応急手当の実施 窒息・熱傷・救急車の手配
5	人生の最終段階における介護①	講義 人生の最終段階の意義と介護の役割 ケアの意味・アセスメントの視点 本人・家族の終末期の心身の変化 死の前・直後・グリーフケア 多職種との連携
6	人生の最終段階における介護②	講義 死の受容（キューブラーロス）
7	人生の最終段階における介護③	演習 状況設定によるグループ演習①　食事
8	人生の最終段階における介護④	演習 状況設定によるグループ演習②　清潔・排泄

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版 7「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

②自立に向けた居住環境の整備　③自立に向けた移動の介護　⑪福祉用具の意義と活用

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ-1		介護福祉科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	市井　和美(実務経験有)

授業の概要

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

・介護を実践する対象、場によらず、さまざまな場面に必要とされる介護の基礎的な知識
・技術を実践することができる
・対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる
・学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる

回	テーマ	内容
1	介護福祉士が行う生活支援の意義・目的	・生活支援の考え方 ・生活の支援、自己決定の支援、楽しみや生きがいの支援
2	生活支援と介護過程	・生活支援に活かすICF・活動・参加することの意味と価値 ・根拠に基づく生活支援技術
3	生活支援に共通する技術	・説明・同意、観察、準備、評価 ・安全な介護
4	多職種との連携	・生活支援とチームアプローチ
5	自立に向けた居住環境の整備	・居住環境の社会・文化的、心理的、身体的意義と目的
6	自立に向けた居住環境の整備の視点	・住み慣れた地域での生活の継続 ・安全で住み心地のよい生活の場 ・快適な室内環境の整備
7	居住環境整備の基本となる知識	・住宅改修 ・バリアフリー・ユニバーサルデザイン
8	対象者の状態・状況に応じた留意点	・疾患、内部障害がある人の留意点 ・集団生活における工夫と留意点 ・在宅生活における工夫と留意点(家族、近隣との関係、多様な暮らし
9	移動の意義と目的	・移動の心理的、身体的、社会、分化的意義と目的
10	自立に向けた移動介助の視点	・移動への動機づけ ・自由な移動を支える介護 ・福祉用具の種類と活用
11	移動・移乗の介護の基本となる知識と技術	・ボディーメカニクス ・車椅子の介助・体験 ・歩行の介助
12	移動・移乗の介護の基本となる知識と技術	・姿勢の保持(ポジショニング、シーティング)・基本動作(寝返り、起き上がり、立ち上がり)

回	テ ー マ	内　　容
13	ベッドメーキング	・DVD ・ベッドメーキングの実践
14	自立に向けた生活支援	・自立に向けた生活支援の基礎的な知識の振り返り
15	自立に向けた生活支援	・自立に向けた生活支援の基礎的な技術の振り返り

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版 7「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

④自立に向けた身じたくの介護
⑤自立に向けた食事の介護

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ-2		介護福祉科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

・介護を実践する対象、場によらず、さまざまな場面に必要とされる介護の基礎的な知識
・技術を実践することができる
・対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる
・学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	自立に向けた身支度の介護	・対象者の能力を活用し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識や技術を習得する ・実践の根拠について、説明できる能力を身につける
2	身支度の意義と目的	・身じたくの社会、文化的、心理的、身体的意義と目的
3	自立に向けた身支度の介護の視点	・その人らしさ、社会性を支える介護・生活習慣と装いの楽しみを支える介護・用具の活用と環境整備
4	自立に向けた身支度の介護の基本となる知識と技術	・整容（洗面、スキンケア、整髪、ひげの手入れ、爪・耳の手入れ）
5	自立に向けた身支度の介護の基本となる知識と技術	・自立に向けた介護実践のDVD
6	自立に向けた身支度の介護の基本となる知識と技術	・口腔の清潔 ・更衣介助
7	自立に向けた食事の介護	・食事の意義と目的
8	自立に向けた食事介護の視点	・美味しく食べることを支える介護・食事の工夫や形態・自助具の活用
9	自立に向けた食事介護の視点	・安全で的確な食事介助の技法
10	自立に向けた食事介護の視点	・利用者の状態・状況に応じた介助の留意点
11	自立に向けた食事介護の視点	・自立に向けた介護実践のDVD
12	自立に向けた食事介護の視点	・変化の兆しの気づきと対応（誤嚥、窒息、脱水）
13	自立に向けた食事介護の視点	・栄養マネジメント

回	テ　ー　マ	内　　容
14	自立に向けた介護	自立支援と生活援助
15	自立に向けた介護	振り返り

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」　中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

⑥自立に向けた入浴・清潔保持の介護
⑦自立の向けた排泄の介護

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ-3		介護福祉科／1 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた ADL、IADL、人生の最終段階における介護の意義と福祉用具活用について基礎的な知識・技術を学ぶ
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

利用者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得、また実践の根拠について説明できる能力が身につく

回	テ　ー　マ	内　　容
1	排泄のしくみ、排泄介助のめやすと方法	排泄介助の注意点、方法、排泄用具の種類（講義）
2	オムツ交換	排尿、排便それぞれのオムツ交換（実技）
3	食事の環境について	高齢者にとっての食事環境とは、食事の形態（講義,演習）
4	食事介助（紙パンツ体験）	紙パンツを体験してみて、食事介助を行う（実技）
5	爪切り、口腔ケア、髭剃り、髪の毛の乾かし方	整容に関して注意すべきこと（実技）
6	入浴介助	麻痺のある場合の洗身、洗髪介助（実技）
7	入浴介助	特浴での全介助（実技）
8	足浴介助	イスに座っての足浴介助（実技）
9	清拭方法	部分清拭と全身清拭（実技）
10	ベッド上での洗髪介助	寝たきりの利用者に対しての洗髪（実技）
11	ベッド上での洗髪介助	寝たきりの利用者に対しての洗髪（実技）
12	トイレ誘導	トイレ誘導を実際のトイレで行う（実技）
13	ポータブル介助	夜間設定の介助（実技）
14	車いすへの移乗	復習も含め車いすへ移乗する（麻痺・全介助）（実技）
15	車いすへの移乗	復習も含め車いすへ移乗する（麻痺・全介助）（実技）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ」　中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	

①自立支援の理解

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ-4		介護福祉科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授業の概要

ICFの視点を生活支援に生かすことの意義を理解し、障害のある人が尊厳を保ちながら自己の能力を活用・発揮した本人主体の生活ができるよう、障害に応じた生活動作の介護実践を学ぶ。
【実務経験】 福祉施設

授業終了時の到達目標

1.医療職と連携して生活を支援するための障害や疾患の基礎的知識と介護上の知識を身につける
2.障害のある人が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な支援について考えることができる
3.障害のある人が尊厳を保持しながら自己の能力を活用・発揮できる自立支援を安全に行うための技術を身につけることができる
4.障害のある人に対して自立支援を安全に行うための観察力・判断力を身につけることができる
5.障害のある人が自己の能力を活用・発揮し安全に自立できるための福祉用具を選択・活用することができる

回	テーマ	内容
1	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術 障害に応じた生活支援技術 肢体不自由（運動機能障害）に応じた介護	講義・演習 障害・疾病と共に生活する人を支えるには 多職種連携 肢体不自由の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 麻痺のある人への支援
2	障害に応じた生活支援技術 視覚障害に応じた介護	講義・演習 視覚障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例
3	障害に応じた生活支援技術 聴覚・言語障害に応じた介護	講義・演習 聴覚・言語障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例
4	障害に応じた生活支援技術 内部障害 心臓機能障害に応じた介護	講義・演習 心臓機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 人工ペースメーカーを使用している人への支援
5	障害に応じた生活支援技術 内部障害 呼吸機能障害に応じた介護	講義・演習 呼吸機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 在宅酸素療法を実施している人への支援
6	障害に応じた生活支援技術 内部障害 腎臓機能障害に応じた介護	講義・演習 腎臓機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 透析療法を実施している人への支援

回	テ ー マ	内　　容
7	障害に応じた生活支援技術 内部障害 肝臓機能障害に応じた介護	講義・演習 肝臓機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 B 型・C 型肝炎の人への支援の際の感染予防 標準予防策
8	障害に応じた生活支援技術 内部障害 膀胱・直腸機能障害に応じた介護	講義・演習 膀胱・直腸機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 ストーマを増設している人への支援
9	障害に応じた生活支援技術 内部障害 HIV による免疫機能障害に応じた介護 重複障害(盲ろう)に応じた介護 重症心身障害に応じた介護	講義・演習 HIV 感染症・重複障害・重症心身障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例
10	障害に応じた生活支援技術 内部障害 小腸機能障害に応じた介護 障害に応じた生活支援技術Ⅱ 高次脳機能障害に応じ介護	講義・演習 小腸機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 経管栄養を実施している人への支援 高次脳機能障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 脳梗塞後の後遺症の人への支援
11	障害に応じた生活支援技術Ⅱ 精神障害に応じた介護	講義・演習 精神障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例 統合失調症・気分障害(うつ病)の人への支援
12	障害に応じた生活支援技術Ⅱ 知的・発達障害に応じた介護	講義・演習 知的障害・発達障害の理解 生活上の困りごと・観察の視点 支援の展開・事例

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

③自立に向けた移動の介護
⑨休息・睡眠の介護

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ-5		介護福祉科／2 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	8 回	15 時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

障害者編では、精神障害のある人の生活援助技術や高次機能障害を認める人の生活支援の基本、認知症・難病及び全介助を要する人の生活援助技術について理解を深める。
【実務経験】　福祉施設

授業終了時の到達目標

施設実習に向けたカリキュラム構成に即し「こころとからだのしくみ」また「社会と人間の理解」での学習をふまえ、より実践に役立つ介護技術の習得をめざす。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	自立に向けた移動の介助	【演習】尊厳ある自立支援の方法
2	移動の介護の基本	【演習】尊厳ある移動・移乗の介助
3	安全な移動の介助	【演習】安全性と尊厳リスクヘッジの必要性
4	運動機能障害のある人の生活支援技術	【演習】運動機能障害についての留意点を踏まえた支援技術について
5	認知症の方の生活支援	【演習】生活支援における認知症の捉え方
6	休息、睡眠	【講義】休息や睡眠の重要性
7	夜間を想定した生活支援	【演習】睡眠時の生活支援
8	個別ケアに向けた支援	【演習】個別性を活かした介護とは何か

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 8「生活支援技術Ⅲ」　中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①介護過程の意義と基礎的理解　②介護過程とチームアプローチ

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護過程１		介護福祉科／1 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授　業　の　概　要

介護過程の意義・目的および介護過程の展開の一連のプロセスに関する基礎的理解
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

・介護過程の意義、取り組みの背景について理解ができる
・介護過程において介護福祉士の役割を意識することができる
・利用者のそれぞれの心身の状態に応じたニーズの理解ができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	介護過程とは	誕生日を贈る場合から考える【講義・演習】
2	介護過程の取り組みの背景	介護観の変化・利用者像の変化・概念の変化【講義】
3	介護職に求められる役割	介護福祉士が目指すこと【講義】
4	介護過程の始まりは良い人間関係	介護過程において信頼関係の重要性【講義】
5	秘密の大切さ、意外な一面	すべてを知ることが良いことではない・ジョハリの窓【講義】
6	問題解決思考とは	原因分析と解決法【講義】
7	情報収集の手段	事実を推測する材料・情報源【講義】
8	ケアマネジメントと介護過程の整理	ケアプランと個別援助計画との違い【講義】
9	介護福祉士が目指すこと	介護福祉士の仕事・特徴【講義】
10	利用者共通の７つの視点	介護過程における視点【講義】
11	介護過程の実践的理解	介護過程の各段階【講義】
12	情報収集とニーズの整理	情報収集の必要性【講義】
13	情報の分析、ニーズの把握	ニーズとは何か・情報から読み取るニーズ【講義】
14	解釈	解釈とは何か【講義】
15	見通しをたてる	ニーズから解釈してみる【講義】

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」　中央法規出版 参考文献 「事例で読み解く介護過程の展開」 中央法規出版	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①介護過程の意義と基礎的理解
③介護過程の展開の理解

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護過程2		介護福祉科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授業の概要

介護過程とICFの関係性、ICFを活用した介護過程、事例を通じた介護過程の展開（情報収集と生活課題の明確化）
【実務経験】 福祉施設

授業終了時の到達目標

・情報収集の大切さについて理解することができる
・ICFの展開の理解ができる
・事例を基に情報収集することができる
・事例を基に生活課題を明確化することができる

回	テーマ	内容
1	ICFを使っての表現	ICFを使って自分を表現してみよう
2	ICFの誕生背景、展開	ICF誕生の背景・ICIDH
3	ICFのプラス面とマイナス面を知る	ICFの特徴とICIDHとの違い
4	ICFの構成要素、マズローの7つの視点	ICFの構成
5	情報収集とは	ありのままの情報・生情報
6	情報の手段と信頼性	どうやって情報をとるのか
7	事例の情報をICFの要素に分類する	ICFの構成要素に分類・グループワーク
8	介護過程の理解	介護過程の理解
9	課題抽出	事例を基に課題を抽出する
10	アセスメントの仕方	情報の解釈、統合化、課題の明確化
11	情報収集において確認すべき事項	ニーズを把握する上で重要なこと・確認事項
12	介護計画シート記入の仕方	長期目標・短期目標の設定
13	実施および評価シート記入の仕方	支援内容を実施・評価のポイントについて
14	介護計画における優先順位とは	優先順位をつけていく・リスクマネジメント
15	介護計画における個別性	個別性・その人らしさと介護計画

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版 参考文献 「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規出版	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

②介護過程とチームアプローチ
③介護過程の展開の理解

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護過程 3		介護福祉科／2 年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	8 回	15 時間	必須	佐野　貴憲(実務経験有)

授　業　の　概　要
利用者の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する 【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標
・チームケアにおける介護過程の意義が理解できる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	事例検討	介護老人福祉施設で暮らす Y さんの事例を通し多職種がどのようにアプローチをするか
2	ICF の展開	事例の情報を ICF の構成要素に落とし込む
3	アセスメントシート	事例をアセスメントシートに落とし込む
4	生活課題について	事例の生活課題の抽出、課題の明確化
5	生活課題について	事例の生活課題の抽出、課題の明確化
6	優先順位の検討	事例からニーズにおける優先順位を決める
7	介護計画の立案	長期目標、短期目標の設定
8	支援内容の設定	具体的支援内容を決めていく

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」　中央法規出版 参考文献 「事例で読み解く介護過程の展開」 中央法規出版	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

③介護過程の展開の理解

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護過程 4		介護福祉科／2 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授　業　の　概　要

個別事例を通じた介護過程の展開、計画、実践、ケーススタディに向けた取り組み
【実務経験】　福祉施設

授業終了時の到達目標

・担当利用者のケースを事例研究としてまとめることができる
・担当利用者を介護過程として一連の流れとして見ていき、支援する具体的な方法を学ぶことができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	介護計画の立案	実践できる計画になっているか
2	生活課題の抽出	実習担当利用者の生活課題の抽出
3	介護計画を作成してみる	実習担当利用者の介護計画を作成してみる
4	事例検討	介護老人福祉施設で生活する利用者の事例
5	事例から情報の整理	T さんの情報を ICF の構成要素と併せて考える
6	事例から課題の抽出	T さんの事例から課題を出す
7	課題の明確化、計画書の作成	T さんの事例から課題を明確にし、計画書を作る
8	課題の明確化、計画書の作成	T さんの事例から課題を明確にし、計画書を作る
9	計画書の作成	目標の設定、具体的支援内容を決める
10	計画書の作成	目標の設定、具体的支援内容を決める
11	介護の実施、評価	事例における介護の実施、評価を書く
12	再アセスメント	再アセスメントの必要性
13	介護過程の再アセスメントから情報の収集・分析・解釈	再アセスメント（情報の見直し・再収集）
14	介護過程の再アセスメントから課題抽出	再アセスメント（課題の抽出）
15	介護過程の再アセスメントから計画室案	再アセスメント（計画の見直し・再立案）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」　中央法規出版 ＊参考文献 「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

③介護過程の展開の理解

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
事例研究		介護福祉科／2 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	23 回	45 時間	必須	佐野　貴憲（実務経験有）

授　業　の　概　要

介護過程の展開の一連の流れを基に事例をまとめ、研究することで実践的な学習を深める
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

施設実習から介護過程の展開、さらに観察から考察・研究という一連の流れを通じて介護福祉士としての専門性を磨く

回	テーマ	内　　容
1	事例研究から学べること	講義 研究の目的・意義について
2	研究過程を理解する	講義　研究により明らかにされること
3	研究の進め方	講義　研究方法
4	介護の実践と結果	講義　介護実践と結果から研究する
5	論文構想の作成	講義・演習　文の構成について・作成に向けて
6	論文構想の作成	講義・演習　文の構成について・作成
7	タイトル、目次について	講義・演習　事例研究のテーマを明確にする
8	文献・資料	講義・演習　研究における文献の活用
9	文献・資料	講義・演習　文献の載せ方について
10	事例の紹介	講義・演習　事例の紹介
11	研究内容	講義・演習　研究内容の明確化
12	研究内容	演習　研究内容の明確化
13	研究内容	講義・演習　研究内容の明確化
14	研究内容	演習　研究詳細の作成
15	研究内容	演習　研究詳細の作成

回	テーマ	内　　容
16	研究内容	演習　研究詳細の作成
17	考察・結論など	講義・演習　結果・考察について
18	考察・結論など	演習　考察についてまとめる
19	結論付け	講義・演習　結果・考察を基に結論付ける
20	おわりに・謝辞	講義・演習　研究によって明らかになったこと
21	パワーポイント作成	講義・演習　パワーポイントの使い方
22	パワーポイント作成	演習　研究内容に沿ったパワーポイントの作成
23	発表	事例研究発表

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」　中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	演習発表 授業態度	80.0% 20.0%	提出物は授業態度に含める

①知識と技術の統合

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護総合演習１		介護福祉科／1 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う
【実務経験】　福祉施設

授業終了時の到達目標

介護実習の効果を上げるため、事前に実習する施設の役割やあり方など介護保険上に基づいた理解ができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	介護総合演習とは	介護総合演習で何を学ぶか、総合演習の位置づけ【講義】
2	介護実習での指導、他科目での学びの統合化	総合演習における他の科目での必要性を知る【講義】
3	多職種協働の意味と重要性の意識化	他職種連携と協働について【講義】
4	介護実習がなぜ必要なのか 実習のおもな流れ	介護実習の必要性、学ぶべきこと【講義】
5	実習Ｉの目的とおもな実習内容	実習Ｉでの学び、実習内容【講義】
6	居宅介護サービスについて	デイサービス【講義】
7	居宅介護サービスについて	グループホーム【講義】
8	居宅介護サービスについて	小規模多機能型居宅介護【講義】
9	学習到達状況の把握と個別指導 養成教育全体の総まとめ	実習においての目標、実習において留意すべき点【講義】
10	施設におけるレクリエーションを知る	レクリエーション体験（利用者として）【演習】
11	施設におけるレクリエーションを知る	レクリエーション体験（利用者として）【演習】
12	学習到達状況の把握と個別指導 養成教育全体の総まとめ	実習においての目標、学習到達をみる【講義】
13	実習ファイル作成	事前学習や個人目標設定【演習】
14	実習ファイル作成	事前学習や個人目標設定【演習】
15	実習振り返り・お礼状作成	実習で学んだことを自分自身で振り返る・目標を達成したか・施設へのお礼状作成【演習】

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 10「生活演習・介護実習」　中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	80.0% 20.0%	提出物は授業態度に含める

①知識と技術の統合

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護総合演習２		介護福祉科／1 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

各科目で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的根拠を通し、介護実習での学びを深めるとともに介護職としての思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習を行う
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

・各科目で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に繋げることができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	実習前の学びと実習後の学びの活かし方	実習の前後で行うこと
2	実習前の学習の内容と方法	事前学習について
3	実習中の学習内容と方法	実習中はどのようなことに留意して学ぶか
4	実習後の学習の内容と方法	実習後はどのようなことをするか
5	施設サービス	特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）
6	施設サービス	介護老人保健施設
7	施設サービス	養護老人ホーム
8	施設サービス	軽費老人ホーム（ケアハウス）
9	施設サービス	障害者支援施設
10	最終カンファレンスについて	シミュレーション
11	実習ファイル作成	事前学習表作成、個人目標設定
12	お礼状作成	施設へのお礼状作成
13	実習の振り返り	個人での実習振り返り、目標達成できたか
14	実習振り返り（グループワーク）	個人での振り返りを基にグループで話し合う
15	実習振り返り（グループワーク）	個人での振り返りを基にグループで話し合う

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	80.0% 20.0%	提出物は授業態度に含める

①知識と技術の統合

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護総合演習３		介護福祉科／2 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

各科目で学ぶ知識と技術の統合
介護実践の科学的根拠を通し、介護実習での学びを深めるとともに介護職としての思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

介護の知識や技術を実践と結びつけ、自己の課題を明確にし、専門職としての対応を養うことができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	実習Ｉのねらい、枠組み、巡回について	次回の実習に向けて・巡回について
2	施設サービス	医療型障害児入所施設・療養型介護施設
3	施設サービス	その他の施設
4	介護技術の実践を軸にした介護実習	介護技術を活かした介護実習
5	介護技術の展開	介護技術を広い視野で考える
6	家族、近隣、地域にも目を向ける介護実習	地域包括ケアシステム
7	あなたを取り巻く環境	自分たちが住んでいる環境についての福祉はどうなっているのか
8	カンファレンス確認	カンファレンスの再確認、シュミレーション
9	実習ファイル作成	事前学習表記入・個人目標設定
10	帰校日	実習記録の確認、振り返り、進捗状況確認
11	お礼状作成	施設へのお礼状を作成する
12	実習振り返り	個人での実習振り返り、目標達成できたか
13	実習振り返り（グループワーク）	個人での振り返りを基にグループで話し合う
14	実習振り返り（グループワーク）	個人での振り返りを基にグループで話し合う
15	次の実習に向けて	次の実習に向けて自己の課題を見つめ直す

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	80.0% 20.0%	提出物は授業態度に含める

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護総合演習４		介護福祉科／2 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

各科目で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的根拠を通し、介護実習での学びを深めるとともに介護職としての思考や態度の形成、自己教育力を養う総合的な学習
【実務経験】　福祉施設

授業終了時の到達目標

質の高い介護実践や実践研究の意義とその方法について理解できる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	実習Ⅱのねらい、目的とおもな実習内容	実習Ⅱでは何を目的とした実習を行う
2	介護過程を展開する介護実習	介護実習内において介護過程の展開を図る
3	介護総合演習における知識と技術の統合化	他科目との統合化を再確認
4	介護総合演習における介護観の形成	介護福祉士として何をすべきなのか
5	実習ファイル作成、カンファレンス確認	事前学習表作成・個人目標設定
6	帰校日	実習の振りかえりと実習記録の確認
7	帰校日	実習の振りかえりと実習記録の確認
8	お礼状作成	実習施設へのお礼状を書く
9	お礼状作成	担当させていただいた利用者へお礼状を書く
10	介護過程の展開のまとめと振り返り	介護過程の展開を再確認
11	介護とは何かを考える	介護とは何かをグループワークを通して考える
12	介護実践に基づく事例研究	担当利用者のアセスメントを振り返る
13	介護実践に基づく事例研究	担当利用者の計画から再度見つめ直す
14	介護実践に基づく事例研究	担当利用者の実施・評価から考察する
15	介護実践に基づく事例研究	担当利用者の実施・評価から考察する

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	80.0% 20.0%	提出物は授業態度に含める

③地域における生活支援の実践

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護実習Ⅰ-1		介護福祉科／1 年	2025／後期	実習
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
		72 時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。
【実務経験】 福祉施設

授業終了時の到達目標

①実習施設・事業等の実際を体験し、施設等の機能や基本的なケアを学ぶ
②基本的な生活支援技術とコミュニケーションに重点を置く
③個別ケアの実践の重要性を知る
④介護実習記録での振り返りや考察力を身につける

授業計画

●居宅サービス（通所介護、小規模多機能型居宅介護、訪問介護）人間関係を形成しながら、慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある高齢者が、サービスの利用に際し、その人らしさを維持しながら生活状況について理解する。また、その生活を継続させるためには何が必要かという個別ケアの実践の重要性を学ぶ。

実習期間：3日間（3回）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
実習の手引き、実習服	実習・実技評価 実習態度・提出物	80.0% 20.0%	4/5 の出席率 施設評価の合格点

①介護過程の実践的展開

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護実習Ⅰ－2		介護福祉科／1年	2025／後期	実習
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
		72時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

施設実習に赴き、多様な介護現場で、利用者の理解を中心としコミュニケーションの実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く実習
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

①実習施設・事業等の実際を体験し、施設等の機能や基本的なケアを学ぶ
②基本的な生活支援技術とコミュニケーションに重点を置く
③個別ケアの実践の重要性を知る
④介護実習記録での振り返りや考察力を身につける

授業計画

●施設サービス（老人保健施設、特別養護老人ホーム）利用者は尊厳を有した存在であり、その人らしさを支えていくために意思決定を尊重した支援や利用者が持っているストレングスや能力に着目し、それを引き出すためのコミュニュケーション方法を初め、総合的な視点から、介護技術ができるよう学ぶ

実習期間：９日間（１回）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
実習の手引き、実習服	実習・実技評価 実習態度･提出物	80.0% 20.0%	4/5の出席率 施設評価の合格点

①介護過程の実践的展開
②多職種協働の実践

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護実習Ⅰ－3		介護福祉科／2 年	2025／前期	実習
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
		112 時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

利用者の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じて介護福祉士の役割について理解する学習とする。
様々な介護施設等で実習を行う。
【実務経験】福祉施設

授業終了時の到達目標

①実習施設・事業等の実際を体験し、施設等の機能や基本的なケアを学ぶ
②基本的な生活支援技術とコミュニケーションに重点を置く
③介護過程を通じて個別ケアの実践の重要性を知る
④利用者の置かれている状況を理解した上でレクリエーションや支援での基本的能力が身につく

授業計画

1．施設実習施設：特別養護老人ホーム、介護保健施設、障害者支援施設等
実習期間：14 日間（1回）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
適宜資料配布	実習・実技評価 実習態度・提出物	80.0% 20.0%	4/5 の出席率 施設評価の合格点

①介護過程の実践的展開
②多職種協働の実践

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
介護実習Ⅱ		介護福祉科／2 年	2025／後期	実習
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
		200 時間	必須	市井　和美（実務経験有）

授　業　の　概　要

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実習後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。様々な介護施設等で実習を行う。
【実務経験】　福祉施設

授業終了時の到達目標

①さまざまな実習施設の介護体験実習を通じて、個々に応じたケア計画の実践を行う
②「介護過程の展開」「変則勤務体験」など実践に即した実習を行う
③チームケアの重要性を知り、連携の在り方を学ぶ
④介護従事者としての倫理や基本的な態度を習得する

授業計画

1．施設実習施設：特別養護老人ホーム、介護保健施設、障害者支援施設等実習期間：25 日間（1回）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
適宜資料配布する	実習・実技評価 実習態度･提出物	80.0% 20.0%	4/5 の出席率 施設評価の合格点

①こころとからだのしくみⅠ（ア、イ）

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
こころとからだのしくみⅠ		介護福祉科／1 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	8 回	15 時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授　業　の　概　要

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理・人体の構造や機能を理解る。その上で生活支援に必要な安全への留意点、心理面への配慮、観察力判断力の基盤となる知識について学ぶ。
【実務経験】病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 人間の身体の構造や生理機能の基礎的な知識を理解することができる
2. 介護を必要とする人の生活支援を行うために必要な身体の動き方のメカニズムを理解することができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	からだのしくみの理解	からだのつくりの理解 細胞・組織・器官 身体各部の名称
2	からだのしくみの理解	人体の構造と機能 脳・神経系（神経系のはたらき）
3	からだのしくみの理解	人体の構造と機能 感覚器系（視覚・聴覚・皮膚等）
4	からだのしくみの理解	人体の構造と機能 内臓の名称（呼吸器・血液循環器）
5	からだのしくみの理解	人体の構造と機能 内臓の名称（消化器・泌尿器）
6	からだのしくみの理解	人体の構造と機能 内臓の名称（筋・骨格系） 骨関節の動き・筋肉の動き
7	生命を維持するしくみ	関連する役割と薬の知識 自律神経・ホメオスタシス・バイタルサイン 介護福祉職に必要な薬の知識
8	こころのしくみ	からだに関連するこころにしくみについて 心理的側面の理解

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規出版	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①こころとからだのしくみⅠ（ア、イ、ウ、エ）

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
こころとからだのしくみⅡ		介護福祉科／1 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	23 回	45 時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授　業　の　概　要

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理・人体の構造や機能を理解る。その上で生活支援に必要な安全への留意点、心理面への配慮、観察力判断力の基盤となる知識について学ぶ。
【実務経験】病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1.移動・身じたく・食事・入浴清潔・排泄の生活場面に応じたこころとからだのしくみについて、人体の構造・機能から理解することができる
2.機能の低下・障害がそれぞれの生活場面に及ぼす影響について、心理面・身体面から理解することができる
3.それぞれの生活支援に必要な安全への留意点・観察点を理解することができる
4.緊急時の対応・多職種連携について理解することができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	移動のしくみ	オリエンテーション 移動の意味・基本姿勢 体位保持のしくみとバランス 良肢位・ポジショニング
2	移動のしくみ	ボディメカニクス 体位変換・歩行・車いす移動のしくみ
3	心身機能の低下が移動に及ぼす影響 （心理面）	移動機能の低下や障害の原因 （麻痺・骨粗しょう症・神経疾患・転倒骨折） 移動機能の低下・障害が及ぼす心理的な影響 心理的機能の低下が移動に及ぼす影響
4	心身機能の低下が移動に及ぼす影響 （身体面）	機能低下や障害が及ぼす移動機能への影響 （廃用症候群・骨折・褥瘡など）
5	移動に関連した変化の気づきと対応	移動時の危険性と観察ポイントについて 緊急時の対応と医療職との連携
6	移動に関連した変化の気づきと対応	移動時の危険性と観察ポイントについて 緊急時の対応と医療職との連携
7	身じたくのしくみ	身じたくの意味 顔面・眼・耳・鼻の構造としくみ

回	テーマ	内容
8	身じたくのしくみ	爪・毛髪・口腔・歯舌の構造としくみ 口臭・洗顔のしくみ
9	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 （心理面）	身じたくの機能の低下や障害の原因 （上肢機能の障害・視覚障害精神機能の低下など） 身じたくの機能低下が及ぼす心理的な影響 心理的機能の低下が身じたくに及ぼす影響
10	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 （身体面）	機能低下や障害が及ぼす身じたく機能への影響 老化による変化 （歯周病・虫歯・口臭・誤嚥性肺炎など）
11	身じたくに関連した変化の気づきと対応	身じたく際の危険性と観察ポイントについて 緊急時の対応と医療職との連携
12	身じたくに関連した変化の気づきと対応	身じたく際の危険性と観察ポイントについて 緊急時の対応と医療職との連携
13	食事のしくみ	食事の意味 身体を作る栄養素・必要な栄養水分量 食欲・口渇と中枢
14	食事のしくみ	食べるしくみ（姿勢・摂食動作・咀嚼・嚥下） 摂食嚥下の５分類 消化と吸収のしくみ
15	心身の機能低下が食事に及ぼす影響 （心理面・身体面）	食事の機能低下が及ぼす心理的な影響 機能の低下が食事に及ぼす影響について 食事の機能の低下や障害の原因 （加齢・脳血管疾患・神経疾患・姿勢保持困難・便秘など）
16	食事の機能低下が身じたくに及ぼす影響 （身体面）	機能低下や障害が及ぼす食事機能への影響 （半側空間無視・脱水・低栄養など） 疾患と治療食
17	食事に関連した変化の気づきと対応	食事の際の危険性と観察ポイントについて 緊急時の対応と医療職との連携
18	食事に関連した変化の気づきと対応	食事の際の危険性と観察ポイントについて 緊急時の対応と医療職との連携
19	入浴のしくみ	入浴・清潔の意味（入浴の三作用） 皮膚・発汗・汚れ・陰部のしくみ
20	心身の機能低下が入浴に及ぼす影響 （心理面・身体面）	認知機能の低下が身じたくに及ぼす影響について 入浴の機能の低下や障害の原因 （加齢・皮膚疾患・視覚機能低下）
21	心身の機能低下が入浴に及ぼす影響 （身体面）	入浴の機能の低下や障害の原因 （運動機能低下・呼吸器疾患・循環器疾患など） 膀胱留置カテーテル・ストーマ・胃ろうの場合
22	入浴関連した変化の気づきと対応	入浴の際の危険性と観察ポイントについて 緊急時の対応と医療職との連携
23	入浴関連した変化の気づきと対応	入浴時の留意点、支援についてグループワーク

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①こころとからだのしくみⅡ（オ、カ、キ）

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
こころとからだのしくみⅢ		介護福祉科／2 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授　業　の　概　要

介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理・人体の構造や機能を理解る。その上で生活支援に必要な安全への留意点、心理面への配慮、観察力判断力の基盤となる知識について学ぶ。
【実務経験】病院

授業終了時の到達目標

1. 排泄・休息睡眠・終末期の生活場面に応じたこころとからだのしくみについて、人体の構造・機能から理解することができる
2. 機能の低下・障害がそれぞれの生活場面に及ぼす影響について、心理面・身体面から理解することができる
3. それぞれの生活支援に必要な安全への留意点・観察点を理解することができる
4. 緊急時の対応・多職種連携について理解することができる

	テ　ー　マ	内　　容
1	排泄のしくみ①	排泄の意味 正常な排尿 人工膀胱のしくみ
2	排泄のしくみ②	排泄の意味 排便のしくみ 人工肛門のしくみ
3	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 （心理面・身体面）	認知機能の低下・ストレスが排泄に及ぼす影響 （機能性失禁・器質性失禁・心因性） 排尿の機能の低下や障害の原因 （ＡＤＬ低下・加齢・運動機能の低下など） 尿失禁の種類と原因
4	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 （身体面）	排便の機能の低下や障害の原因 便秘・下痢・便失禁の種類と原因 ブリストル便性状スケール
5	排泄関連した変化の気づきと対応	下痢・便秘の危険性と観察ポイントについて 緊急時の対応と医療職との連携
6	休息・睡眠のしくみ①	休息・睡眠の意味 睡眠の質・睡眠時間の変化 サーカディアンリズム
7	休息・睡眠のしくみ②	睡眠のしくみ・レム睡眠とノンレム睡眠 睡眠と体温の変化・睡眠とホルモン分泌 生活習慣と睡眠
8	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 （心理面・身体面）	加齢による睡眠の変化・活動量の変化・環境の変化 睡眠障害 レストレスレッグス症候群・睡眠時無呼吸症候群
9	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 （身体面）	睡眠不足が及ぼす影響 生活リズムの変化・活動性の低下・意欲の低下
10	休息・睡眠に関連した変化の気づきと対応	休息・睡眠に関する観察ポイントについて 緊急時の対応と医療職との連携

	テ　ー　マ	内　　容
11	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方①	死のとらえ方 生物学的な死・法律的な死・臨床的な死 尊厳死・安楽死 リビングウィル・意思決定支援
12	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方②	死のとらえ方 看取りに関わる人の価値観 終末期（ターミナル期）
13	「死」に対するこころの理解	死に対する恐怖・不安 死を受容する段階（キューブラ・ロス） 家族の死を受容する段階
14	終末期から危篤状態 死後のからだの理解	終末期から危篤時の身体機能の低下の特徴 （終末期の特徴・危篤時の変化・死の三兆候）
15	終末期から危篤状態 死後のからだの理解	死後の身体変化

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70. 0% 30. 0%	提出物は授業態度に含める

①こころとからだのしくみⅠ（ア）

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
こころとからだのしくみⅣ		介護福祉科／2 年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授　業　の　概　要

介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力・判断力の根拠となる人間のこころのはたらきやしくみを理解する。
【実務経験】病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 人間のこころのしくみについて基礎的な知識を理解することができる
2. 介護を必要とする人の生活支援を行うために必要なこころ動きのメカニズムを理解することができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	こころのしくみの理解	オリエンテーション 健康とは何か 健康の定義・健康づくり・健康観
2	こころのしくみの理解	人間の欲求とは 基本的欲求・社会的欲求・自己実現と尊厳 マズローの欲求階層説
3	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 こころとは 脳のしくみ
4	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 こころとは 脳のしくみ
5	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 認知のしくみ 失語・失認・失行
6	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 認知のしくみ 失語・失認・失行
7	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 学習のしくみと種類 古典的条件付け・道具的条件付け・観察学習
8	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 学習のしくみと種類 古典的条件付け・道具的条件付け・観察学習
9	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 記憶の種類としくみ 記銘・保持・再生 短期記憶と長期記憶・陳述記憶と非陳述記憶
10	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 記憶の種類としくみ 記銘・保持・再生 短期記憶と長期記憶・陳述記憶と非陳述記憶
11	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 思考のしくみ 妄想の種類
12	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 感情・情動のしくみ 意欲・動機付けのしくみ

回	テ　ー　マ	内　　容
13	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 適応のしくみ 適応機制の種類
14	こころのしくみの理解	こころのしくみの基礎 ライチャードの高齢者人格分類
15	こころのしくみの理解	こころのしくみのまとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・テキスト最新 介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①人間の成長と発達の基礎的理解
②老化に伴うこころとからだの変化と生活

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
発達と老化の理解Ⅰ		介護福祉科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授業の概要

人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化と老化が生活に及ぼす影響について学び、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する
【実務経験】病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1.心身の構造や機能と発達段階とその課題について理解できる
2.身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえることができる
3.認知症や障害のある人の生活を支えるため、医療職と連携し支援を行うための基礎的な知識を習得できる
4.認知症や障害のある人の心身機能が生活に及ぼす影響について理解できる
5.本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な心理・社会的な支援について基礎的な知識を習得することができる

1	老年の特徴と発達課題①	オリエンテーション 老年期の定義 WHO定義・老人福祉法
2	老年の特徴と発達課題② 老化に伴う身体的な変化と生活への影響	老化とは、老化の特徴、老化に伴う心身の変化の特徴 生理機能・予備力・回復力・防衛力・免疫機能
3	老年の特徴と発達課題③ 老化に伴う社会的な変化と生活への影響 高齢者と健康①	老年期の発達課題 喪失体験・人格と尊厳 日常生活への影響 老々介護・孤独死・エイジズム、高齢者の健康 サクセスフルエイジング
4	老年の特徴と発達課④ 高齢者と健康②	老年期の発達課題 セクシャリティ 老年期をめぐる今日的課題、日本の高齢化・高齢者の多様性 高齢者の症状と疾患の特徴 閉じこもり・廃用症候群・老年症候群
5	老化に伴う心理的な変化と生活への影響①	認知機能の変化 記憶の種類と加齢に伴う変化
6	老化に伴う心理的な変化と生活への影響②	知的機能の変化 流動性知能と結晶性知能・動機付け・適応規制
7	高齢者と健康③ 老化に伴う身体的な変化と生活への影響② 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①	高齢者の症状と疾患の特徴 慢性経過・複数疾患・非典型的症状・痛み等 老化に伴う心身の変化の特徴、フレイル 高齢者の症状と疾患の特徴（筋・骨格系） 骨粗鬆症・骨折・変形性膝関節症・関節リウマチ 変形性脊椎症・脊柱管狭窄症など
8	老化の理解	講義　老化についての理解（まとめ）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

②老化に伴うこころとからだの変化と生活

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
発達と老化の理解Ⅱ		介護福祉科／1 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授　業　の　概　要

人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化と老化が生活に及ぼす影響について学び、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する
【実務経験】病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 心身の構造や機能と発達段階とその課題について理解できる
2. 身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえることができる
3. 認知症や障害のある人の生活を支えるため、医療職と連携し支援を行うための基礎的な知識を習得できる
4. 認知症や障害のある人の心身機能が生活に及ぼす影響について理解できる
5. 本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な心理・社会的な支援について基礎的な知識を習得することができる

1	老化に伴う身体的な変化と生活への影響③ 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③-1	老化に伴う心身の変化の特徴 高齢者の症状と疾患の特徴（脳・神経系） パーキンソン病・脳血管疾患（脳梗塞・脳出血） 失語・失認・構音障害
2	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③-2	高齢者の症状と疾患の特徴（脳・神経系） パーキンソン病・脳血管疾患（脳梗塞・脳出血） 失語・失認・構音障害
3	老化に伴う身体的な変化と生活への影響④ 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④-1	老化に伴う心身の変化の特徴 高齢者の症状と疾患の特徴（感覚器系） 伝音性難聴と感音性難聴など 白内障・緑内障・加齢黄斑変性症など 老人性皮膚掻痒症・白癬・疥癬（感染症）など
4	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④-2	高齢者の症状と疾患の特徴（感覚器系） 伝音性難聴と感音性難聴など 白内障・緑内障・加齢黄斑変性症など 老人性皮膚掻痒症・白癬・疥癬（感染症）など
5	老化に伴う身体的な変化と生活への影響⑤ 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤-1	老化に伴う心身の変化の特徴 高齢者の症状と疾患の特徴（循環器系） 高血圧・不整脈・心筋梗塞と狭心症
6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤-2	高齢者の症状と疾患の特徴（循環器系） 高血圧・不整脈・心筋梗塞と狭心症
7	老化に伴う身体的な変化と生活への影響⑥ 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥-1	老化に伴う心身の変化の特徴 高齢者の症状と疾患の特徴（呼吸器系） 肺炎（誤嚥性含む）・喘息・呼吸困難・感染症など
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥-2	高齢者の症状と疾患の特徴（呼吸器系） 肺炎（誤嚥性含む）・喘息・呼吸困難・感染症など
9	老化に伴う身体的な変化と生活への影響⑦ 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦	老化に伴う心身の変化の特徴 高齢者の症状と疾患の特徴（消化器系） 消化性潰瘍・逆流性食道炎・肝硬変・感染性胃腸炎・ 胆のう炎胆管炎（感染症）など

回	テ ー マ	内　　容
10	老化に伴う身体的な変化と生活への影響⑧ 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑧	老化に伴う心身の変化の特徴 高齢者の症状と疾患の特徴(腎泌尿器系) 尿路感染症・前立腺肥大・腎不全など
11	老化に伴う身体的な変化と生活への影響⑨ 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑨	老化に伴う心身の変化の特徴 高齢者の症状と疾患の特徴(内分泌・代謝系) 糖尿病・脂質異常症・痛風など
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑩	高齢者の症状と疾患の特徴(歯・口腔) 虫歯・歯周病・ドライマウスなど
13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑪	高齢者の症状と疾患の特徴(悪性新生物) 胃がん・肺がん・大腸がんなど
14	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑫	高齢者の症状と疾患の特徴(精神疾患・その他) うつ病
15	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑬	高齢者の症状と疾患の特徴(精神疾患・その他) 統合失調症など

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①人間の成長と発達の基礎的理解

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
発達と老化の理解Ⅲ		介護福祉科／2 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	8 回	15 時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授　業　の　概　要

人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化と老化が生活に及ぼす影響について学び、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を習得する
【実務経験】病院

授業終了時の到達目標

1. 心身の構造や機能と発達段階とその課題について理解できる
2. 身体的・心理的・社会的側面を総合的にとらえることができる
3. 認知症や障害のある人の生活を支えるため、医療職と連携し支援を行うための基礎的な知識を習得できる
4. 認知症や障害のある人の心身機能が生活に及ぼす影響について理解できる
5. 本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な心理・社会的な支援について基礎的な知識を習得することができる

1	人間の成長と発達の基礎的知識①	オリエンテーション 成長・発達の考え方と原則・法則
2	人間の成長と発達の基礎的知識② 人間の発達段階と発達課題①	成長・発達に影響する要因 発達理論　胎児期～老年期・発達理論
3	人間の発達段階と発達課題②	身体的機能の成長と発達
4	人間の発達段階と発達課題③	心理的機能の発達（ピアジェ） 社会的機能の発達（ピアジェ・エリクソン）
5	発達段階別にみた特徴的な疾患・障害①	胎児期・乳児期の疾患や障害 染色体異常・脳性麻痺・先天性代謝異常
6	発達段階別にみた特徴的な疾患・障害②	幼児期・学童期の疾患や障害 知的障害・発達障害・外傷・感染症
7	発達段階別にみた特徴的な疾患・障害③	思春期・青年期・成人期の疾患や障害（1） 統合失調症・気分障害・摂食障害
8	発達段階別にみた特徴的な疾患・障害④	思春期・青年期・成人期の疾患や障害（2） 生活習慣病・更年期障害・自殺

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①認知症を取り巻く状況
②認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
認知症の理解Ⅰ		介護福祉科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授　業　の　概　要

認知症の人の心理・身体機能・社会面に関する基礎的な知識を習得し、認知症の人を中心にすえ、本人や家族・地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を学ぶ
【実務経験】病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1.認知症ケアの歴史・現状と今後の課題について理解することができる
2.認知症による障害・原因となる疾患と検査や治療について理解できる
3.認知症の特徴的な心理と行動について理解することができる
4.認知症と間違いやすい症状について理解することができる
5.機能の変化と日常生活への影響について理解することができる
6.認知症の人の家族への支援・地域のサポート体制について理解することができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	認知症の基礎的理解① 認知症ケアの歴史と理念	オリエンテーション 歴史的背景とケアの理念・権利擁護 認知症の高齢者数の推移と支援対策
2	認知症の基礎的理解② 認知症とは何か	認知症の定義・診断基準・特徴と進行 認知症の人の心理（パーソンセンタード・ケア）
3	認知症の基礎的理③ 脳のしくみ（1）	脳の構造と機能 記憶のしくみと知能（流動性知能と結晶性知能） 認知症が生じるしくみと症状
4	認知症の基礎的理解④ 脳のしくみ（2）	認知症・せん妄・うつとの違い 軽度認知症（MCI）とは
5	認知症の症状・診断・治療・予防	中核症状の理解 加齢にもの忘れと認知症の記憶障害の違い 中核症状：記憶障害（記憶の種類と加齢による変化）
6	認知症の症状・診断・治療・予防	中核症状：見当識障害・遂行機能障害 社会的認知障害 高次脳機能障害（失語失認失行）
7	認知症の症状・診断・治療・予防	BPSDの理解 BPSDとは何か BPSDを誘発する原因と対応
8	認知症の人へのケア	代表的なBPSDと対処法 徘徊・物取られ妄想・もの集め・暴言暴力
9	認知症の症状・診断・治療・予防	生活障害の理解 認知症が生活に与える影響（ADL・IADL） 認知症の診断基準 認知症の評価スケール HDS-R・MMSE・CDR・FAST・日常生活自立度判定基準

回	テ ー マ	内　　容
10	認知症の症状・診断・治療・予防	アルツハイマー型認知症　病態・症状・経過・生活障害とケア 【事例演習】対応をグループで考え実際に実践発表 もの取られ妄想・帰宅欲求・食事要求・若返り
11	認知症の症状・診断・治療・予防	血管性認知症 病態・症状・経過・生活障害とケア
12	認知症の症状・診断・治療・予防	レビー小体型認知症　病態・症状・経過・生活障害とケア 【事例演習】対応をグループで考え実際に実践発表 幻視・パーキンソン症状・自律神経失調
13	認知症の症状・診断・治療・予防	前頭側頭型認知症（ピック病）　病態・症状・経過・生活障害とケア 【事例演習】対応をグループで考え実際に実践発表 常同行動・万引き
14	認知症の症状・診断・治療・予防	若年性認知症　病態・症状・経過・生活障害とケア 社会支援の体勢 治療可能な認知症 正常圧水頭症・慢性硬膜下血種・クロイツフェルト・ヤコブ病
15	認知症の理解	認知症についての心理的側面

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

③認知症に伴う生活への影響と認知症ケア　④連携と協働　⑤家族への支援

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
認知症の理解Ⅱ		介護福祉科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授業の概要

認知症の人の心理・身体機能・社会面に関する基礎的な知識を習得し、認知症の人を中心にすえ、本人や家族・地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を学ぶ
【実務経験】病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1.認知症ケアの歴史・現状と今後の課題について理解することができる
2.認知症による障害・原因となる疾患と検査や治療について理解できる
3.認知症の特徴的な心理と行動について理解することができる
4.認知症と間違いやすい症状について理解することができる
5.機能の変化と日常生活への影響について理解することができる
6.認知症の人の家族への支援・地域のサポート体制について理解することができる

回	テーマ	内容
1	障害を抱えて生きることへの支援	認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念と視点・関わりと気づき 認知症当事者の視点から見えるもの 認知症の人の想い・体験が生活に及ぼす影響 想いを尊重したサポート方法
2	認知症ケアの実際	意思決定のための支援 パーソンセンタードケアに基づいた実践
3	認知症ケアの実際	認知症の特性を踏まえたアセスメント・ツール センター方式・ひもときシート 健康状態のアセスメント 【事例演習】
4	認知症ケアの実際	認知症の人とのコミュニケーション コミュニケーションの基本的理解 コミュニケーションの実際
5	認知症ケアの実際	認知症の人への生活支援・環境づくり　排泄のケア 【事例演習】 失行・失認・機能性尿失禁
6	認知症ケアの実際	認知症の人への生活支援・環境づくり　入浴清潔のケア 【事例演習】
7	認知症ケアの実際	認知症の人への生活支援・環境づくり　休息と睡眠のケア 【事例演習】
8	認知症ケアの実際	認知症の人への生活支援・環境づくり　活動と生きがいのケア 【事例演習】
9	認知症ケアの実際	認知症の人への生活支援・環境づくり　BPSDのケア 【事例演習】
10	認知症ケアの実際	認知症の人への人生の最終段階のケア・環境づくり 終末期医療と介護・課題 【事例演習】

回	テーマ	内容
11	認知症ケアの実際	認知症の人への様々なアプローチ リアリティ・オリエンテーション(RO) 回想法・音楽療法・バリデーション療法など 【演習】
12	介護者支援	家族への支援 認知症の人を介護する家族の状況 身体的・心理的・社会的負担 レスパイトケア・エンパワメント
13	介護者支援	介護福祉職への支援 働きやすい職場環境の整備 ケアモデルを実践するための環境整備
14	認知症の人の地域生活支援	制度・サービス・器官・地域づくり 新オレンジプラン・地域包括ケアシステム 認知症サポーター・認知症カフェ 若年性認知症、認知症当事者への支援
15	地域支援	認知症サポーターについて

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」 中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①障害の基礎的理解　②障害の医学的･心理的側面の基礎的理解
③障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
障害の理解Ⅰ		介護福祉科／1 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授　業　の　概　要

障害をもつ人の心理・身体機能・社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、障害のある人の地域での生活を理解し本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を学ぶ
【実務経験】　病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 様々な障害の心身の構造や機能・発達段階とその過程について理解し、生活を支援するための介護上の知識を身に付けることができる
2. 医療職と連携して支援するための障害や疾患の基礎的知識を習得することができる
3. 障害のある人が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な社会資源の活用方法について理解することができる
4. 社会福祉の基本理念について理解することができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ① 視覚障害	講義　オリエンテーション 視覚障害のある人を理解する 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援について学ぶ
2	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ② 聴覚障害	講義　聴覚障害のある人を理解する 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援を学ぶ
3	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ③ 言語障害	講義　言語覚障害のある人を理解する 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援を学ぶ
4	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ④ 重複障害	講義　重複障害のある人を理解する 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援を学ぶ
5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ⑤ 内部障害（心臓機能）	講義　内部障害（心臓機能障害）のある人を理解する 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援を学ぶ
6	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ⑥ 内部障害（呼吸機能）	講義　内部障害（呼吸機能障害）のある人を理解する 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援を学ぶ
7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ⑦ 内部障害（腎機能）	講義　内部障害（腎機能障害）のある人を理解する 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援を学ぶ
8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ⑧ 内部障害（膀胱・直腸）	講義　内部障害（膀胱・直腸障害）のある人を理解する 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援を学ぶ

回	テ　ー　マ	内　　容

9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ⑩ 内部障害（小腸）	講義　内部障害（小腸機能障害）のある人を理解する 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援を学ぶ
10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ⑪ 内部障害（HIV）	講義　内部障害（HIV）のある人を理解する 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援を学ぶ
11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ⑫ 内部障害（肝臓）	講義　内部障害（肝臓機能障害）のある人を理解する 疾患の理解：障害の種類・原因と症状 心理面・生活面・支援を学ぶ
12	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ⑬ 重症心身障害	講義　重症心身障害の人の理解をする 疾患の理解：障害の原因と症状 心理面・生活面・支援を学ぶ
13	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 知的障害	講義　知的障害者の人の理解をする 意思表示やコミュニケーション方法について理解する 認知力・生活体験・ライフステージの関係を考慮した支援を学ぶ
14	生活の場：入所施設・グループホームの生活について 日中活動の場：生活介護・就労継続Ｂ型について	入所施設・グループホームで生活している人、生活介護や就労継続Ｂ型支援に通っている人の動画を観る 障害者総合支援法の福祉サービスの一部を理解する
15	障害の理解Ⅰのまとめ	視覚障害・聴覚障害・言語障害・重複障害・ 内部障害・重症心身障害・知的障害について 学んだことを振り返る
16	科目修了テスト(筆記試験)	
17	科目修了ふりかえり	科目修了テスト返却

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 14「障害の理解」　中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①障害の基礎的理解　④連携と協働　⑤家族への支援

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
障害の理解Ⅱ		介護福祉科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	石原　香代子（実務経験有） 宗石　敏典

授　業　の　概　要

障害をもつ人の心理・身体機能・社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、障害のある人の地域での生活を理解し本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を学ぶ
【実務経験】病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

1. 様々な障害の心身の構造や機能・発達段階とその過程について理解し、生活を支援するための介護上の知識を身に付けることができる
2. 医療職と連携して支援するための障害や疾患の基礎的知識を習得することができる
3. 障害のある人が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要な社会資源の活用方法について理解することができる
4. 社会福祉の基本理念について理解することができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	障害の理解Ⅰの振り返り	講義 ・視覚障害・聴覚障害・重複障害・内部障害・・重症心身障害・知的障害について学んだことを振り返る
2	障害の概念	講義 ・障害のとらえ方　医学モデルと社会モデルの概念とICIDHからICFへの移り変わりからとらえ方を学ぶ ・日本の障害者数を知る ・日本の各法律に基づき障害者の定義を学ぶ
3	障害者福祉の基本理念	講義 ・ノーマライゼーションの思想のあゆみを学ぶ ・リハビリテーションの意義を学ぶ ・インクルージョン・エンパワメント・ストレングスの理念を学ぶ ・国際障害者年の理念・障害者権利条約の目的と合理的配アドボカシーによる意思決定支援を学ぶ
4	障害者福祉に関する制度	講義 ・日本の障害福祉施策に関する歴史を学ぶ ・障害者総合支援法に基づくサービスを学ぶ ・障害者差別解消法・障害者虐待防止法・障害者の就労支援・成年後見制度について学ぶ
5	障害者福祉制度と介護保険制度	講義 ・障害者福祉制度と介護保険制度の違いについて学ぶ ・障害福祉サービスと介護保険サービスの併用のしくみについて学ぶ
6	連携と協働①	講義 ・地域サポート体制の概念と社会資源の考え方を理解する ・相談支援専門員の役割と（自立支援）協議会を学ぶ ・チームアプローチを知り保健医療関係職種の確認をする

回	テーマ	内　容
7	連携と協働②	・事前学習とし社会資源について調べる 講義 ・連携と協働①について振り返る アクティブラーニング　相談支援専門員の仕事を理解する ・例題をもとに各個人で社会資源をつなげる支援を考える ・グループに分かれて社会資源をつなげる支援を考え発表する
8	家族への支援	講義 ・家族支援について自分や家族の場合だったら、障害受容について考え、家族支援を本人と家族の双方の立場から考える ・家族の介護力の評価と介護負担の軽減について学ぶ
9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ 障害のある人の心理	講義 ・人間の欲求や適応機制について知る ・障害受容に与える影響、段階に応じた支援のポイントを理解する
10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ 肢体不自由（運動機能障害）	講義 ・肢体不自由の状態や特性を理解する ・肢体不自由のある人の支援のあり方を理解する
11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 高次脳機能障害	講義 ・高次脳機能障害の具体的な症状とおもな原因について、身体的・心理的側面の影響や生活面の影響を学ぶ ・高次脳機能の障害の特性に応じた支援とその留意点について学ぶ
12	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 精神障害	講義 ・精神障害の種類とその特性について学ぶ ・精神障害のある人への支援とその留意点について、医療福祉サービスを含むさまざまな社会資源を使った幅広い支援について理解する
13	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 発達障害	講義 ・発達障害の特性を理解する ・発達障害のある人の生活とその支援を学ぶ ・家族、教育。医療との連携のあり方を理解する
14	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 難病	講義 ・難病の定義について学ぶ ・難病に関する基礎的知識を理解する ・難病の人に対するアセスメントの視点と生活支援上の留意点を理解する
15	障害の理解Ⅰ・Ⅱのまとめ	講義 ・障害の理解Ⅰ・Ⅱを振り返る ・国家試験対策をおこなう
16	科目修了テスト(筆記試験)	
17	科目修了ふりかえり	科目修了テスト返却

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 14「障害の理解」　中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

①医療的ケア実施の基礎

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
医療的ケアⅠ		介護福祉科／1 年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	8 回	15 時間	必須	石原　香代子（実務経験有/病院・施設）

授　業　の　概　要

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得する

授業終了時の到達目標

1. 介護福祉士が医行為の一部を行うことになった制度の背景を理解することができる
2. 医療的ケアの倫理上の留意点・清潔保持と感染予防について理解することができる
3. 応急手当・救急蘇生法といった安全な療養生活のための基礎知識を理解することができる
4. 健康状態の把握・急変状態の対応について理解することができる

回	テ　ー　マ	内　　容
1	オリエンテーション 人間と社会保健医療制度 チーム医療	講義　医療的ケアの背景・制度 医行為とは何か・介護福祉士の実施要件 チーム医療と介護職員との連携 その他制度（介護保険法・障害者総合支援法他）
2	安全な療養生活①	講義　医療的ケアの安全な実施 リスクマネジメント（ヒヤリハット・アクシデント） 演習　事故報告書の作成
3	安全な療養生活② 救急蘇生法	講義　救急蘇生の重要性・手順の留意点 AED 使用の一次救命
4	安全な療養生活③ 応急手当	講義　応急手当の種類と方法
5	清潔保持と感染予防① 感染管理と予防 スタンダードプリコーション	講義　感染が成立するしくみ・感染の種類 スタンダードプリコーションの意味と重要性 衛生学的手洗い 演習　衛生学的手洗い
6	清潔保持と感染予防② 滅菌と消毒職員の感染予防	講義　滅菌と消毒の違い・薬剤 職員の感染予防・健康管理（持込・持出） 滅菌手袋の装着方法 演習　滅菌手袋の装着
7	健康状態の把握① 健康状態を把握する項目（心身） 医療行為ではないと考えられる行為	講義　バイタルサインの種類と正常値 医療職へ報告が必要な状態・急変状態とは 医療行為ではないと考えられる行為とは
8	感染予防の視点	講義　介護職におけるスタンダードプリコーション

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」　中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

②喀痰吸引および③経管栄養の基礎的知識・実施手順

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
医療的ケアⅡ		介護福祉科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	23回	45時間	必須	石原　香代子（実務経験有） 【実務経験】病院・福祉施設

授業の概要

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識と技術を習得する

授業終了時の到達目標

1. 介護福祉士が医行為の一部を行うことになった制度の背景を理解することができる
2. 医療的ケアの倫理上の留意点・清潔保持と感染予防について理解することができる
3. 応急手当・救急蘇生法といった安全な療養生活のための基礎知識を理解することができる
4. 健康状態の把握・急変状態の対応について理解することができる

回	テーマ		内容
1	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識① 呼吸のしくみ・いつもと違う呼吸状態	講義	呼吸のしくみとはたらき・呼吸の異常と観察点 チアノーゼ・努力性呼吸・呼吸不全
2	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識② 痰を出すしくみ・喀痰吸引が必要な状態	講義	喀痰が貯留している状態とは 喀痰を外に出すしくみ 喀痰吸引が必要な状態と観察のポイント
3	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識③ 人工呼吸器が必要な状態	講義	人工呼吸器が必要な状態とは 人工呼吸器の種類・しくみと観察点 緊急時の医療職との連携 人工呼吸療法
4	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識④ 子どもの喀痰吸引を受ける 本人家族の気持ち	講義	喀痰吸引が必要な子どもとは 子どもの喀痰吸引の留意点と観察ポイント 吸引を受ける利用者・家族の気持ち 説明と同意の必要性と配慮
5	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識⑤ 吸引を受ける本人家族の気持ち	講義 演習	吸引を受ける側の気持ちを体験し、声掛けの仕方 プライバシーへの配慮 説明と同意の必要性を理解 悪い事例を体験し、修正点を考える（Gワーク）
6	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の基礎知識⑥ 呼吸器感染と予防・吸引伴う危険	講義	吸引に関連した呼吸器感染と予防 吸引により生じる危険と安全確認 急変・事故発生時の対応と医療職との連携
7	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順① 器具の名前としくみ・清潔動作・排痰	講義	喀痰吸引で使用する器具の名前としくみ 清潔動作の必要性 排痰を促すケア（ドレナージ・口腔ケア） 口腔ケア
8	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順② 吸引前の状態観察と準備 吸引実施中の観察と根拠口腔鼻腔と気管の違い	講義	吸引前の情報収集と必要な観察点・準備の仕方 吸引中の観察と根拠 口腔鼻腔内吸引と気管カニューレ内吸引の違い 口鼻腔内吸引と気管カニューレ内吸引
9	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順③ 吸引後の観察と報告・記録	講義 演習	吸引後の観察と医療職への報告記録と連携 吸引チューブを挿入し抜く（口鼻・気管）
10	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順④ 吸引3項目の実施手順と根拠のまとめ	講義	口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内吸引の 実施手順と根拠の復習
11	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識① 消化器のしくみとはたらき嚥下のしくみと誤嚥	講義	消化器のしくみとはたらき 嚥下のしくみと誤嚥・誤嚥性肺炎 摂食嚥下のプロセス

回	テーマ	内容
12	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識② 消化器症状と加齢との関係経管栄養とは 経管栄養が必要な状態	講義　よくある消化器症状と原因 経管栄養のしくみと種類 経管栄養が必要な状態とは 経管栄養（経鼻・胃ろう）
13	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識③ 胃瘻腸瘻のチューブの種類 経鼻経管栄養の種類	講義　胃ろう造設のメリットデメリット 経鼻経管栄養のメリットデメリット 栄養チューブの交換
14	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識④ 注入する栄養剤の種類と長所短所	講義　栄養剤の種類とメリットデメリット 水分・栄養不足で生じる加齢に関する変化
15	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識⑤ 経管栄養時に起こるトラブルと対処法経管栄養に関する感染の危険と予防急変・事故対応	講義　経管栄養の際に起こりうるトラブルと対応 （下痢・皮膚トラブルなど） 口腔ケアの重要性 急変時の医療職との連携
16	高齢者及び障害児・者の経管栄養の基礎知識⑥ 子どもの経管栄養本人家族の気持ち 説明と同意	講義　子どもと大人の消化器の違い 子どもの経管栄養の際の注意点と違い 本人家族の気持ちへの配慮・説明と同意の必要性
17	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順① 器材の名前としくみ 清潔保持と消毒	講義　器材の名前としくみ 栄養剤の違い（流動・半固形）による物品の違い 物品の消毒方法演習 半固形栄養剤をシュミレーターに注入
18	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順② 経管栄養前の状態観 準備胃瘻腸瘻と経鼻経管栄養の事前観察項目	講義　事前の状態観察と医療職からの情報収集 胃瘻腸瘻と経鼻の観察項目の違いと根拠 プライバシーとポジショニングの必要性と根拠
19	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順③ 実施中の観察項目と根拠	講義　実施中の観察項目と根拠の理解 演習　滴下調整・シリンジのエア抜き
20	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順④ 実施後の観察項目・報告・記録	講義　終了後の観察項目と医療職への報告・記録 胃瘻腸瘻・経鼻経管栄養
21	高齢者及び障害児・者の経管栄養の実施手順⑤ 経管栄養２項目の実施手順と根拠まとめ	講義　胃瘻腸瘻・経鼻経管栄養の実施手順と根拠の復習
22	医療的ケア全体のまとめ：1～3章 （医療的ケア制度～吸引・経管栄養） 救急蘇生法の実施手順と根拠復習	医療的ケア全体のまとめ問題を解き、知識の定着を図る
23	まとめ	医療的ケア演習前試験対策 （医療的ケア習得審査）

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」　中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	提出物は授業態度に含める

④演習

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
医療的ケアⅢ		介護福祉科／2 年	2025／前期	演習
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90 分	15 回	30 時間	必須	石原　香代子（実務経験有）

授　業　の　概　要

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得する
【実務経験】病院・福祉施設

授業終了時の到達目標

①喀痰吸引（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ）：5 回目は全て「ア」評価
　実施をシュミレーターを使い準備から報告まで正しく安全に手順通りに実施できる
②経管栄養（胃ろう・経鼻経管）：5 回目は全て「ア」評価
　実施をシュミレーターを使い準備から報告まで正しく安全に手順通りに実施できる
③救急蘇生法を手順通りに実施できる（1 回）

回	テ　ー　マ	内　　容
1	オリエンテーション 救急蘇生法のデモンストレーション実施	AED を使った一次救命の演習
2	喀痰吸引・経管栄養のデモンストレーション演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
3	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
4	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
5	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
6	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
7	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
8	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
9	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
10	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
11	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
12	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
13	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
14	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養
15	喀痰吸引・経管栄養の演習	2 グループに分かれて手順を覚え評価を受ける A：喀痰吸引 B：経管栄養

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト最新 介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」　中央法規出版 ＊参考文献については、その都度提示	実技評価 演習態度	80.0% 20.0%	提出物は授業態度に含める